

高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画
アンケート調査結果報告書（案）

平成 26 年 10 月

清須市

目次

第1章 調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査票の種類と対象者	3
3 調査期間と調査方法	4
4 調査票の回収状況	4
5 報告書の見方	4

第2章 日常生活圏域ニーズ調査結果

1 宛名のご本人について	7
2 家族構成	8
3 住まいの状況	8
4 暮らしの状況	9
5 虚弱リスク保有者の状況	10
6 運動リスク保有者の状況	13
7 低栄養リスク保有者の状況	16
8 口腔リスク保有者の状況	19
9 閉じこもりリスク保有者の状況	22
10 物忘れリスク保有者の状況	25
11 うつリスク保有者の状況	28
12 日常生活動作（ADL）低下者の割合	31
13 手段的自立度（IADL）低下者の割合	34
14 生活機能（知的能動性）低下者の割合	37
15 生活機能（社会的役割）低下者の割合	40
16 老研指標総合評価の割合	43
17 認知機能障害保有者の割合	46
18 転倒リスク保有者の割合	49
19 地域活動への参加状況	52
20 現病保有状況	53

第3章 日常生活圏域ニーズ調査結果（市独自設問）

1 「たすけあい」について（問7）	57
2 健康について（問8）	60
3 その他について（問9）	61

第4章 要介護認定者の調査結果

1 本人の状況について	65
2 介護サービスについて	69
3 施設の入所申込み状況等について	73
4 主に介護している方について	77

第5章 事業者の調査結果

1 サービス提供状況等について	85
2 対応が困難な利用者について	88
3 地域密着型サービスについて	90
4 市の在宅サービスについて	92

第6章 介護支援専門員の調査結果

1 サービス提供状況等について	95
-----------------------	----

資料編

1 電算処理の設定条件	113
2 65歳以上高齢者調査票	122
3 要介護認定者（在宅・施設）調査票	128
4 サービス提供事業者調査票	132
5 介護支援専門員調査票	135

第 1 章

調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、地域包括ケアの充実を目指した第6期介護保険事業計画を策定するうえで、必要な高齢者の現状やサービスのニーズ等の把握を行うため実施するものです。計画の策定にあたっては、地区ごとに精度の高い高齢者の状態像・ニーズや、高齢者の自立生活を阻む課題（地域課題を含む）をよりの確に把握する必要がある、このため65歳以上の高齢者については、地区別に意向や意見等を収集することを目的として実施しました。

2 調査票の種類と対象者

（1）日常生活圏域ニーズ調査票

調査対象者	要支援・要介護認定者を除く 65 歳以上の高齢者（記名式）
サンプル数	4,000 件
抽出方法	無作為抽出

（2）要介護認定者用調査票

調査対象者	要支援・要介護認定者
サンプル数	1,200 件
抽出方法	無作為抽出

（3）事業者用調査票

調査対象者	介護サービス事業者
サンプル数	156 件
抽出方法	市内においてサービス提供実績のある事業者

（4）介護支援専門員用調査票

調査対象者	介護支援専門員
サンプル数	39 件
抽出方法	市内において契約実績のある介護支援専門員

3 調査期間と調査方法

調査期間	65歳以上高齢者	平成26年5月15日～5月23日
	要介護認定者	平成26年6月12日～6月27日
	事業者	
	介護支援専門員	平成26年5月20日
調査方法		郵送による配布・回収

4 調査票の回収状況

調査区分	配布数	回収数	回収率
65歳以上高齢者	4,000件	2,825件	70.6%
要介護認定者	1,200件	689件	57.4%
事業者	156件	80件	51.3%
介護支援専門員	39件	39件	100.0%
合 計	5,395件	3,633件	67.3%

5 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- クロスと表記のあるグラフ、表は該当する設問について回答者の属性別に分析したものです。

第2章 日常生活圏域ニーズ調査結果

第2章 日常生活圏域ニーズ調査結果

※日常生活圏域とは、その住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して定める区域として、介護保険法により設定することとされており、国では、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される区域として、中学校区を単位として想定しています。

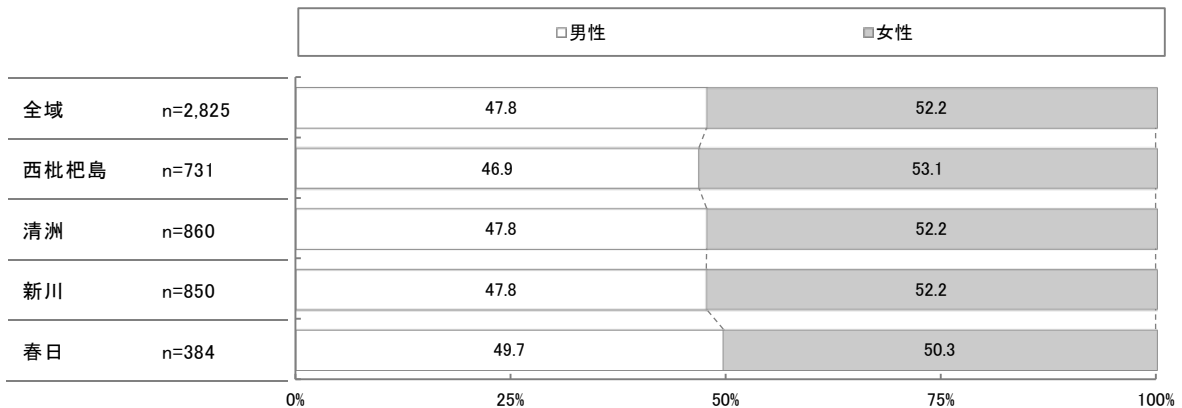
1 宛名のご本人について

性別は、「男性」より「女性」の方がやや高くなっています。

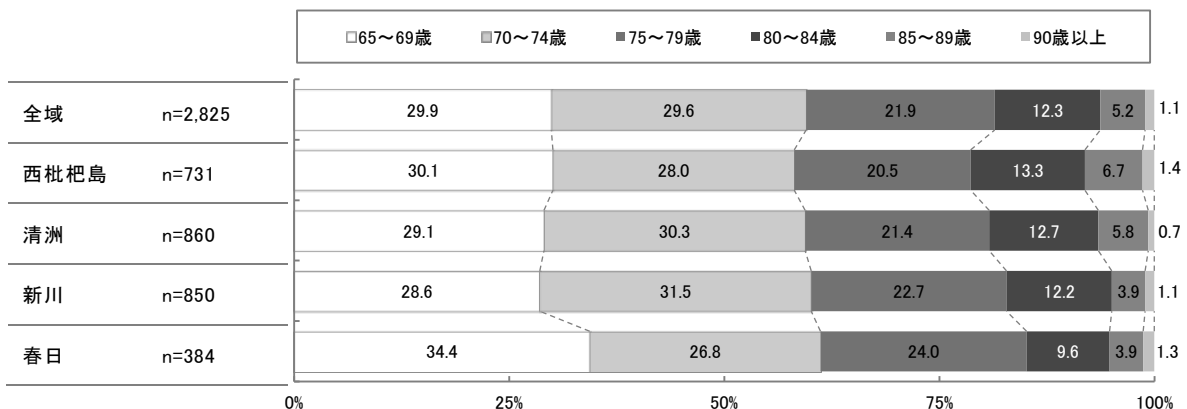
年齢階層は、どの地区も似た傾向となっていますが、春日地区は「65～69歳」の割合が他の地区よりもやや高くなっています。

日常生活圏域は、「春日地区」が13.6%で最も少なく、その他の地区はそれぞれ約3割となっています。

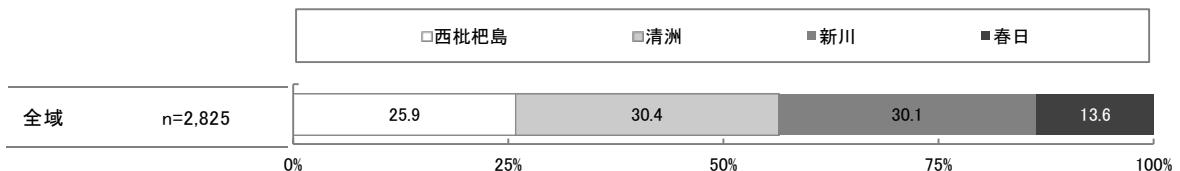
【性別】



【年齢階層】



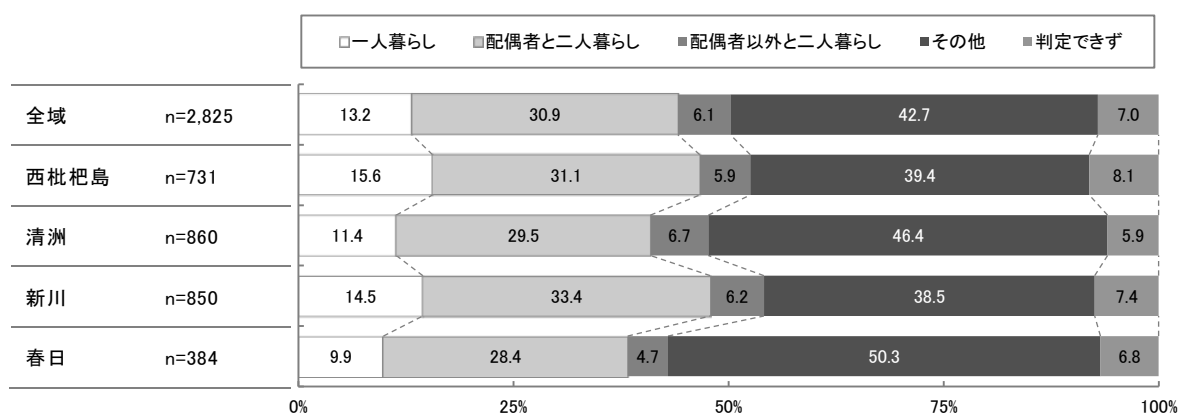
【日常生活圏域】



2 家族構成

Q1. 家族構成をお教えてください(1つに○)

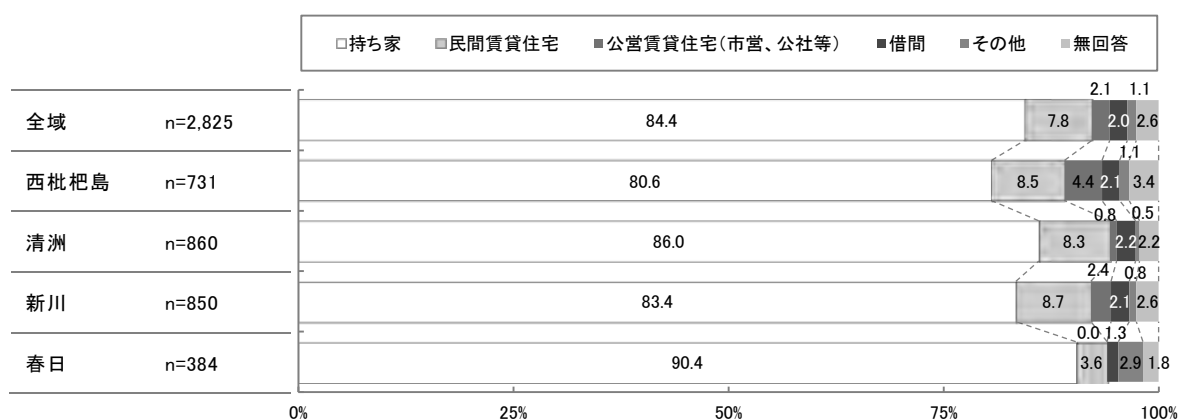
家族構成は、「その他」を除いて「配偶者と二人暮らし」が最も高くなっています。地区別にみても同様となっています。高齢者のみの世帯である「一人暮らし」「配偶者と二人暮らし」を合わせると44.1%となり、新川地区、西枇杷島地区では約5割となっています。



3 住まいの状況

Q6. お住まいは、次のどれにあたりますか(1つに○)

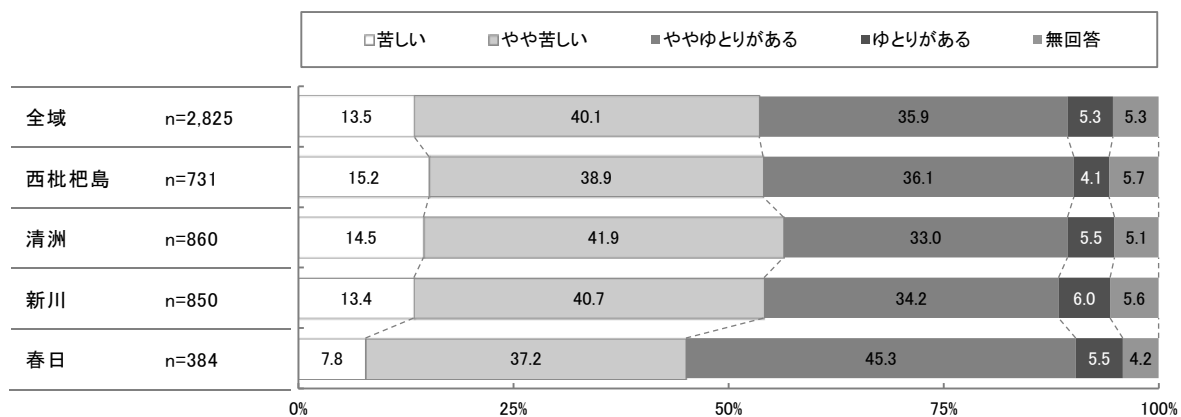
住まいは、「持家」が最も高く、どの地区も8割を超えています。



4 暮らしの状況

Q4. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(1つに○)

暮らしの状況は、「やや苦しい」が最も高くなっています。地区別にみると、西枇杷島地区、清洲地区、新川地区では「やや苦しい」が最も高く、春日地区では「ややゆとりがある」が最も高くなっています。



5 虚弱リスク保有者の状況

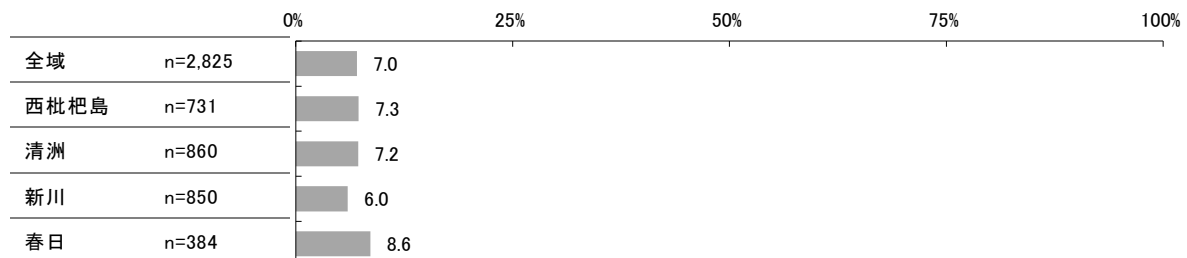
虚弱リスク

・身体が弱っており、生活の活力が失われている状態を判定しています。

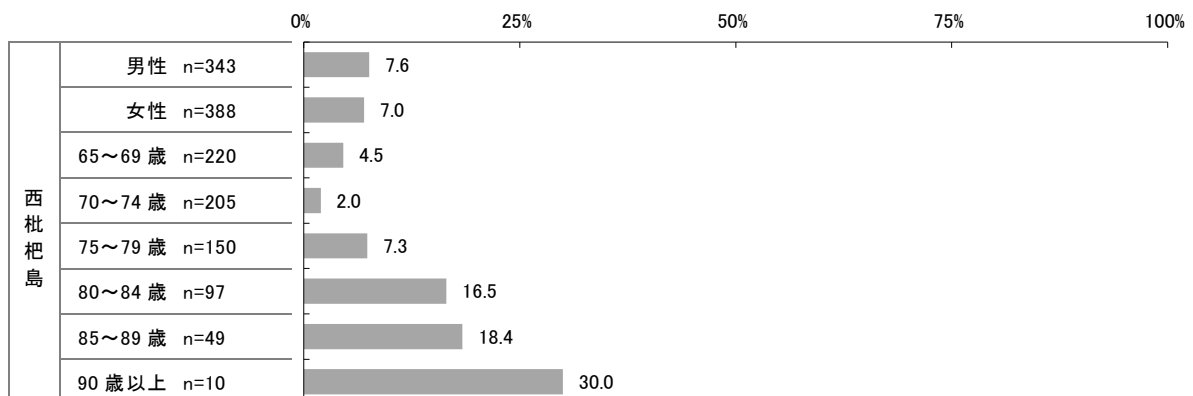
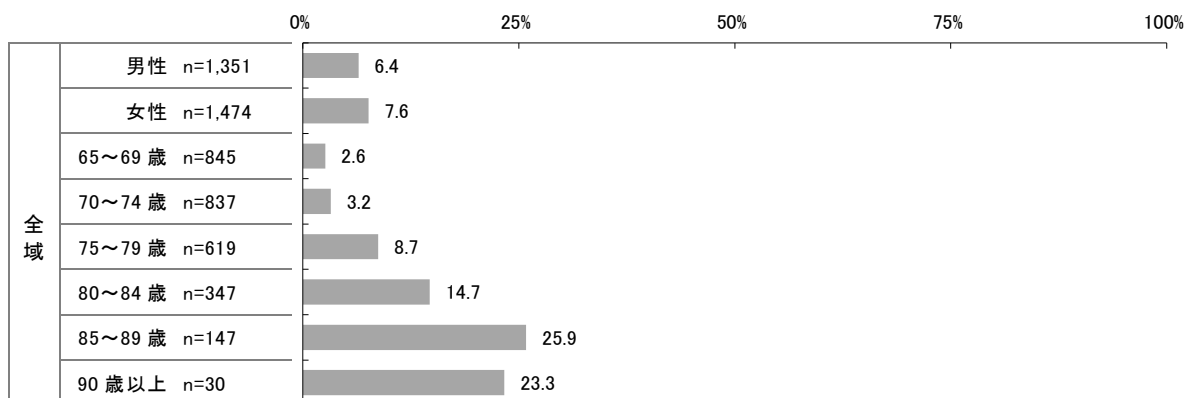
※「リスク3」に該当した方の割合になります。

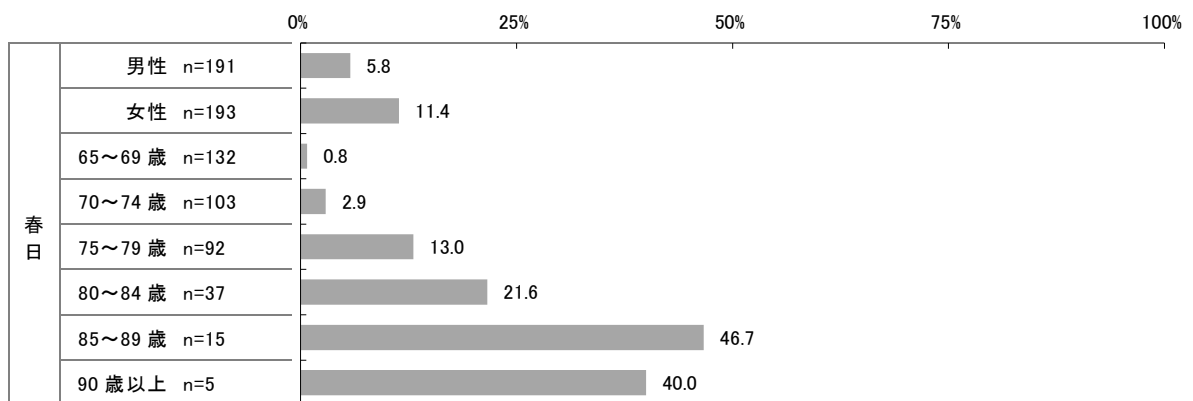
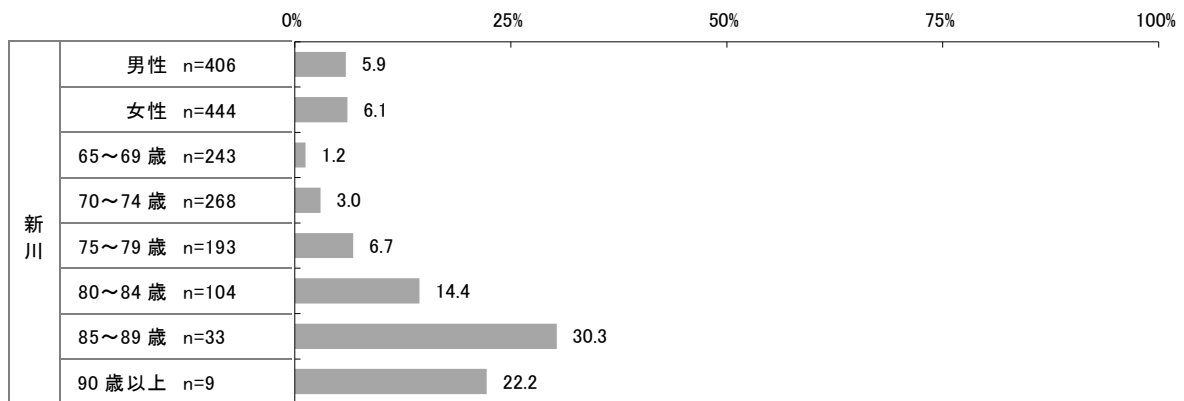
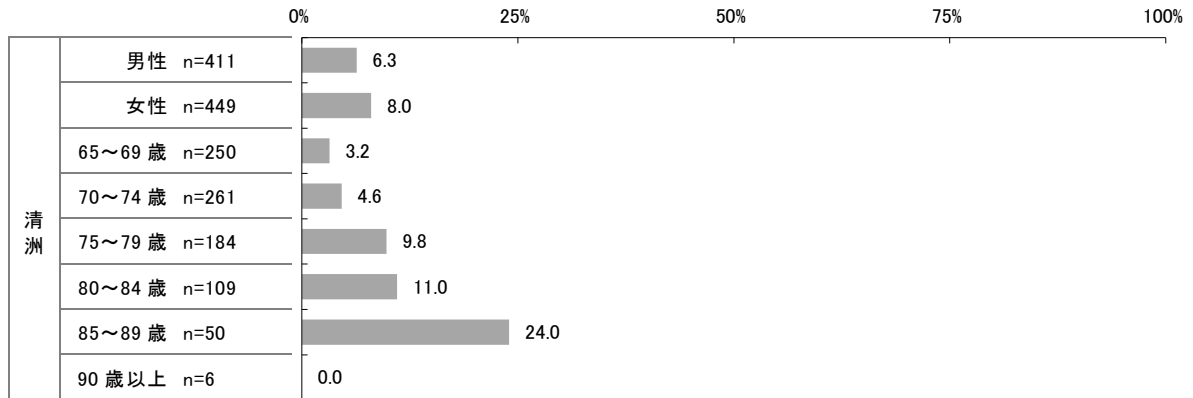
虚弱リスク保有者は7.0%となっています。地区別にみると、新川地区が6.0%で最も低く、春日地区が8.6%で最も高くなっています。性別にみると、男性より女性の方がやや高くなっています。年齢階級別にみると、80歳以上になると1割を超えています。世帯構成別にみると、「配偶者以外と二人暮らし」が他の世帯よりも高く、1割を超えています。

○65歳以上高齢者の虚弱リスク保有者の割合(全域・地区別)

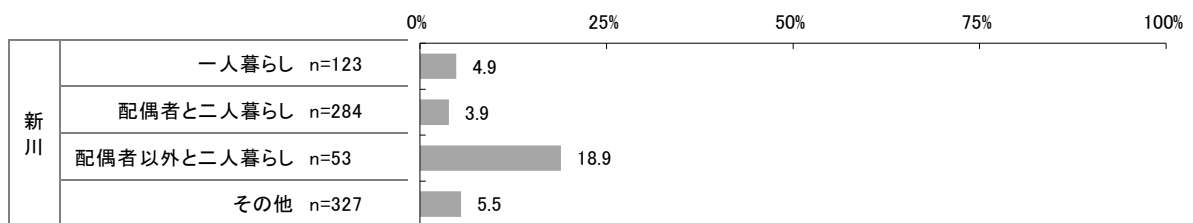
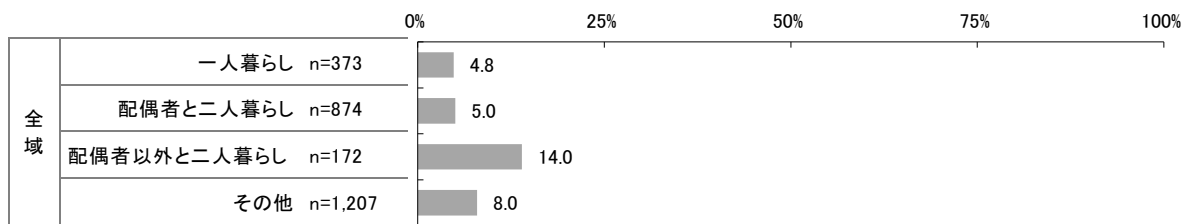


○虚弱リスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○虚弱リスク保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



6 運動リスク保有者の状況

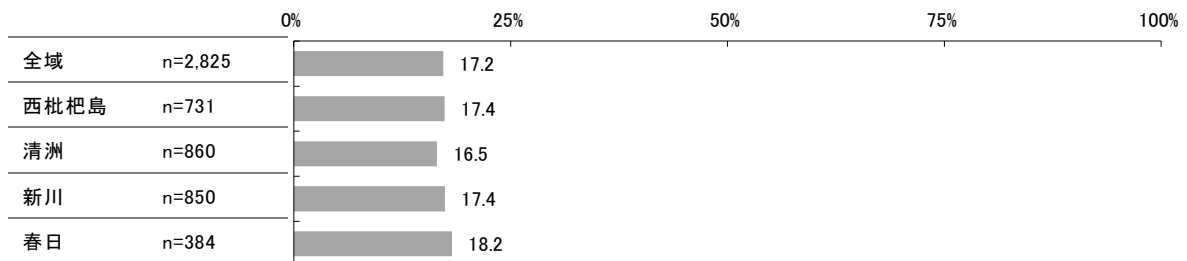
運動リスク

・運動器(骨・関節・筋肉・神経など身体を動かす組織・器官の総称)の働きが弱まっている状態を判定しています。

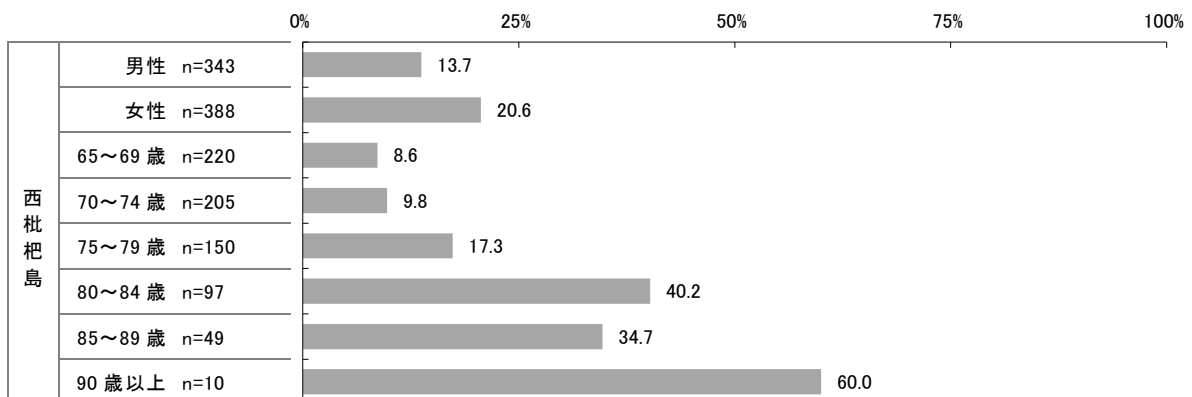
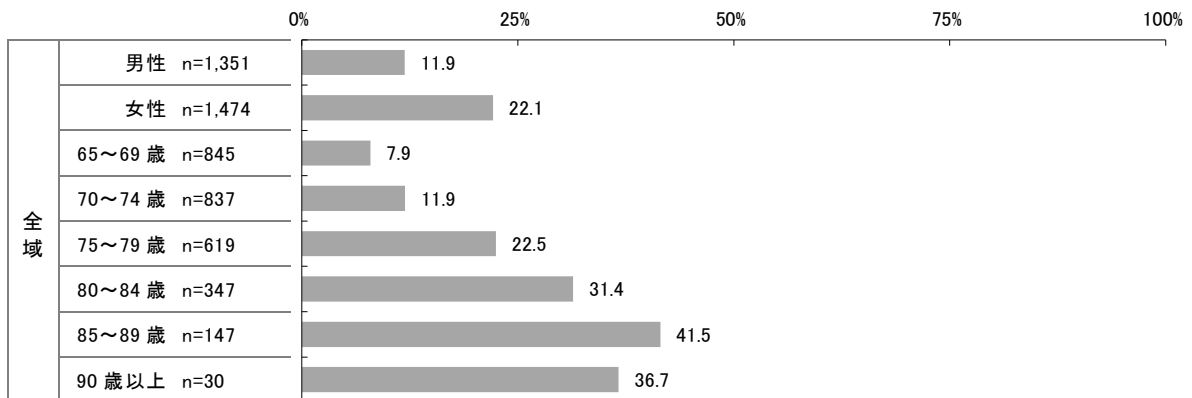
※「リスク3」に該当した方の割合になります。

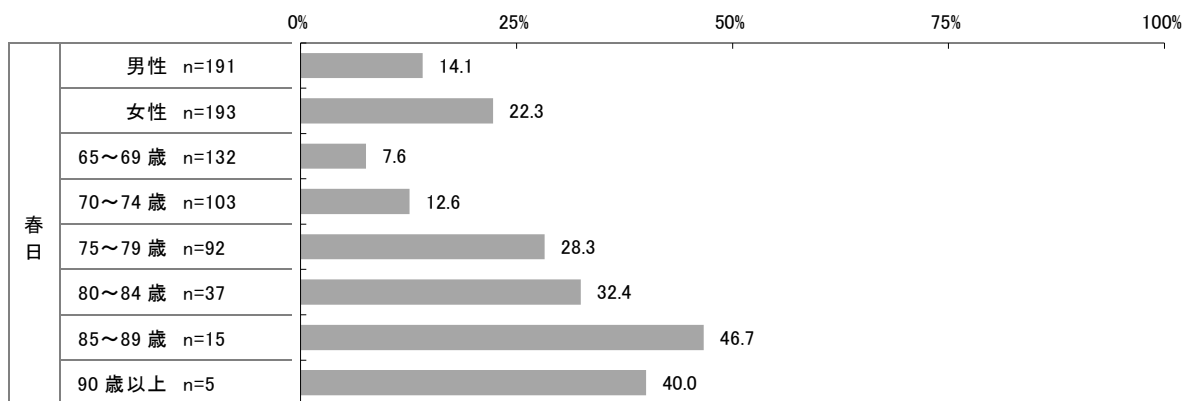
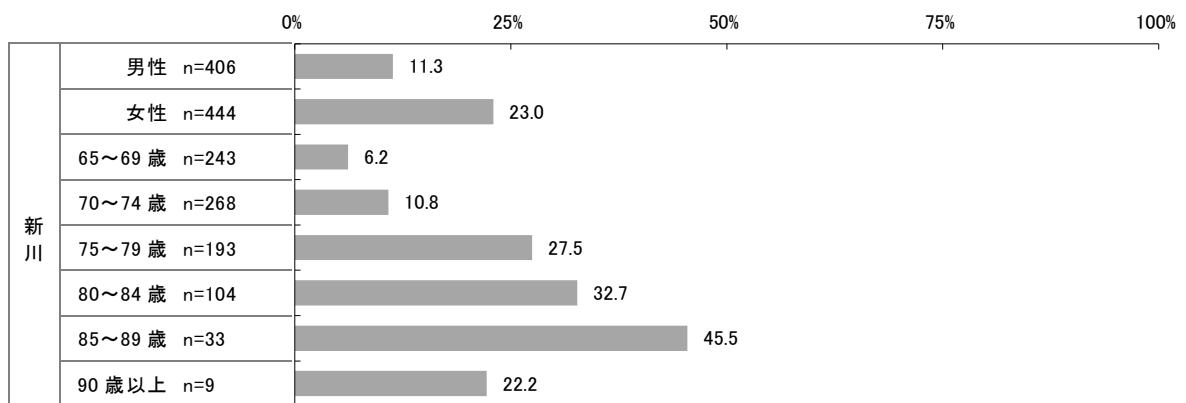
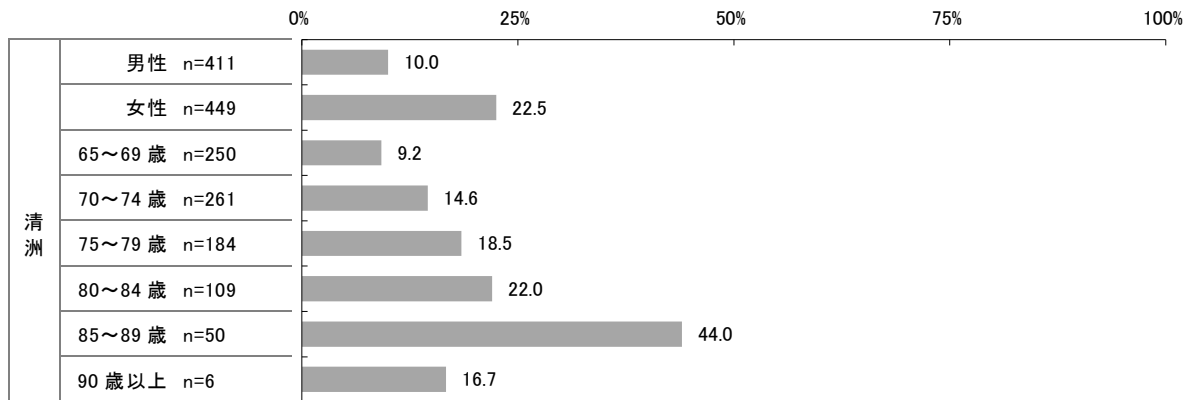
運動リスク保有者は17.2%となっています。地区別にみると、清洲地区が16.5%で最も低く、春日地区が18.2%で最も高くなっています。性別にみると、男性より女性の方が高くなっています。年齢階級別にみると、全域では85～89歳が最も高いですが、西枇杷島地区では90歳以上が最も高くなっています。

○65歳以上高齢者の運動リスク保有者の割合(全域・地区別)

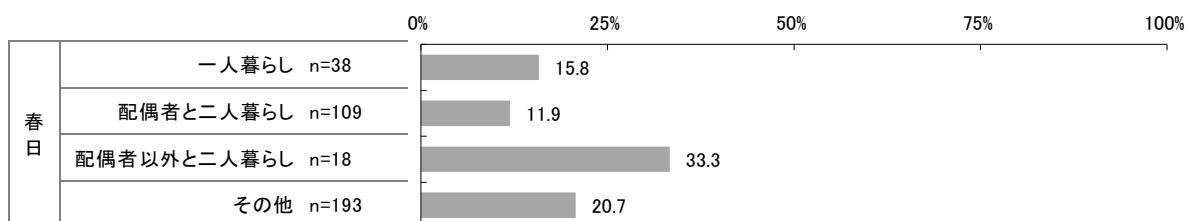
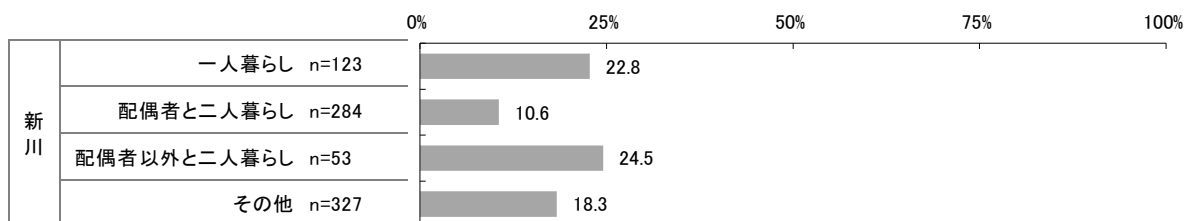
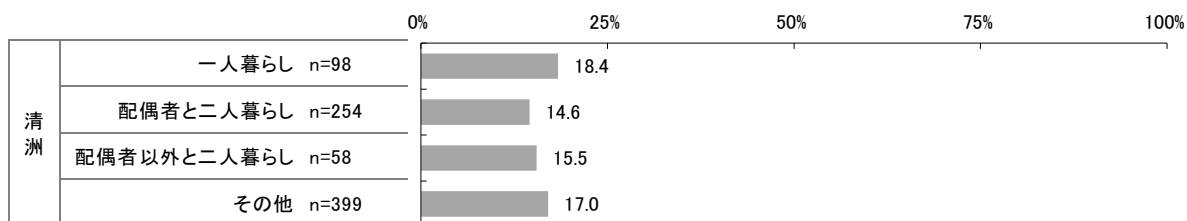
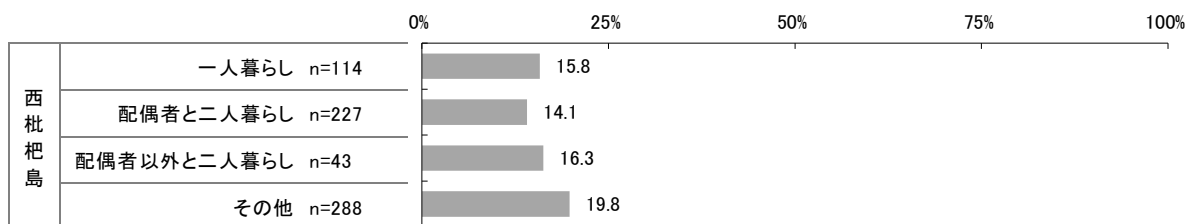
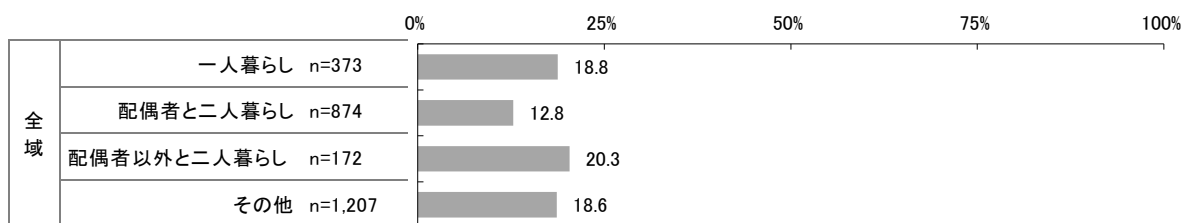


○運動リスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○運動リスク保有者の世帯構成ごとの割合(全域・地区別)



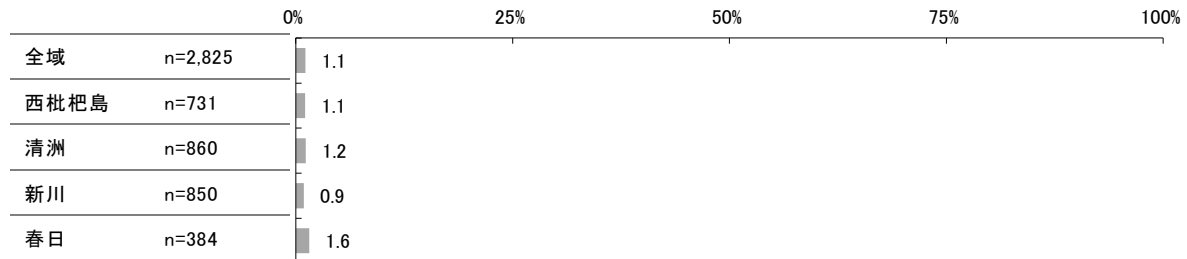
7 低栄養リスク保有者の状況

低栄養リスク

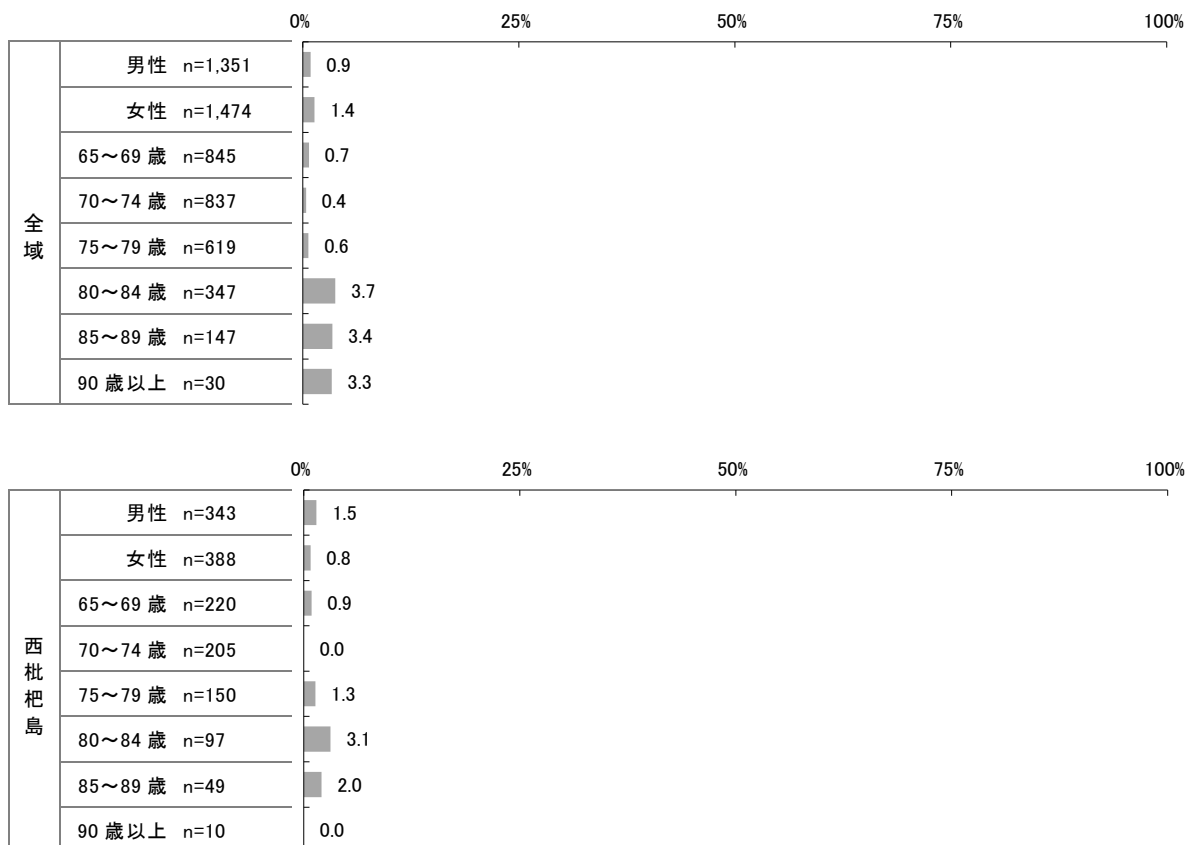
- ・偏食などにより本人が気付かないうちに栄養不足に陥っている状態を判定しています。
- ※「リスク3」に該当した方の割合になります。

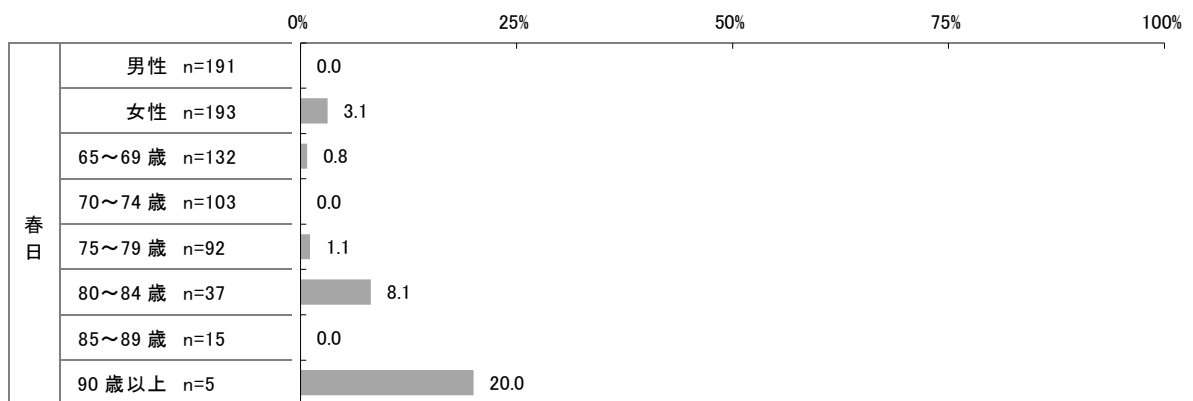
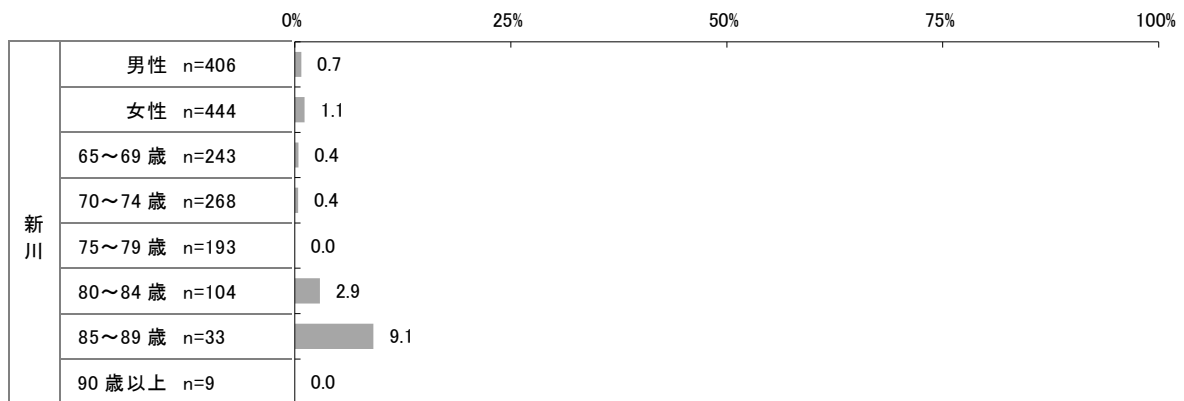
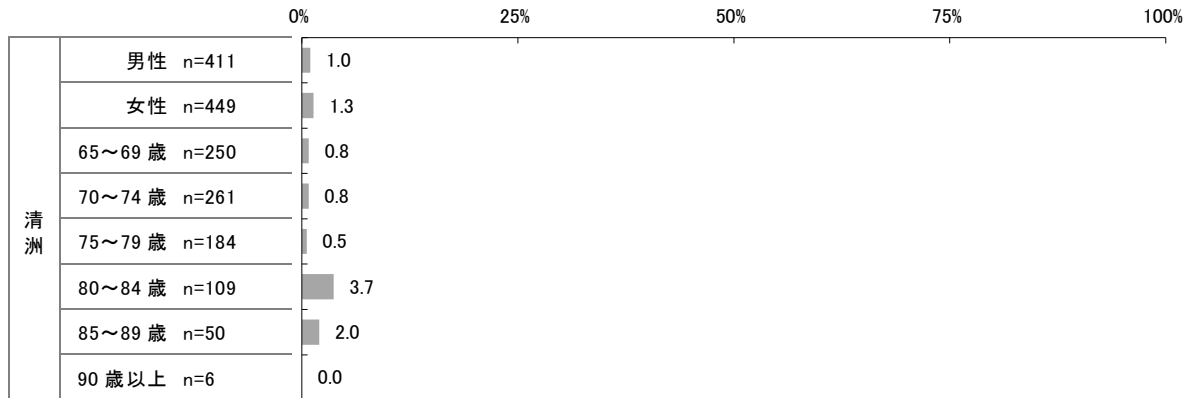
低栄養リスク保有者は1.1%となっています。全体的に低い割合となっています。

○65歳以上高齢者の低栄養リスク保有者の割合(全域・地区別)

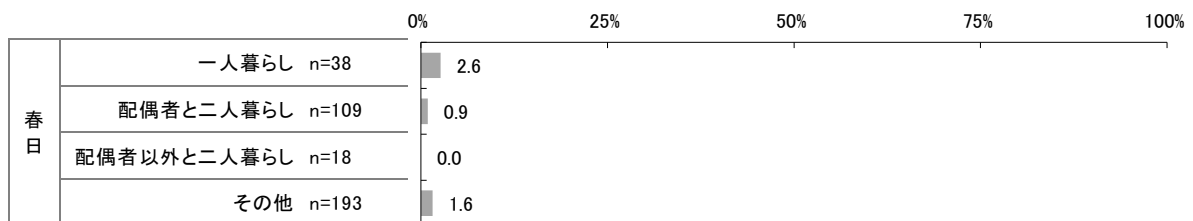
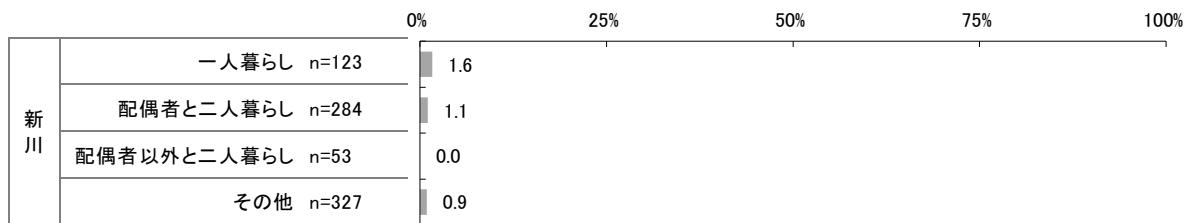
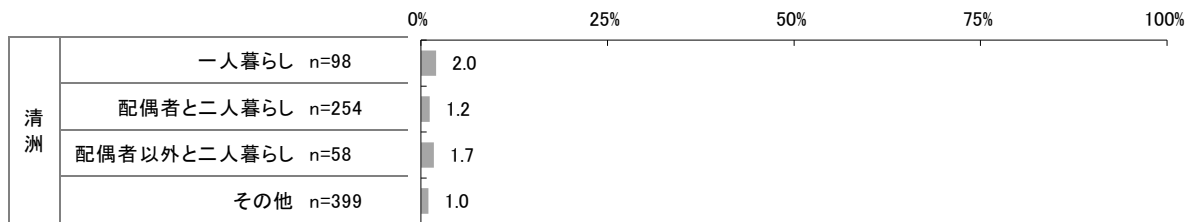
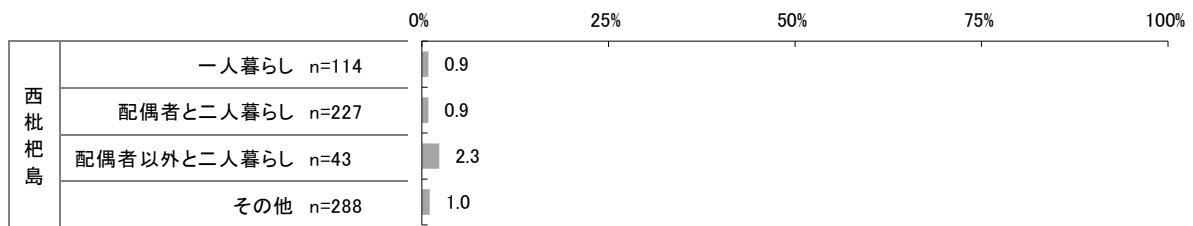
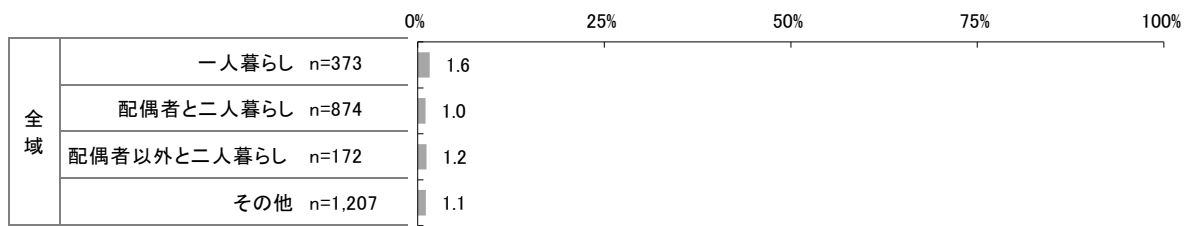


○低栄養リスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○低栄養リスク保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



8 口腔リスク保有者の状況

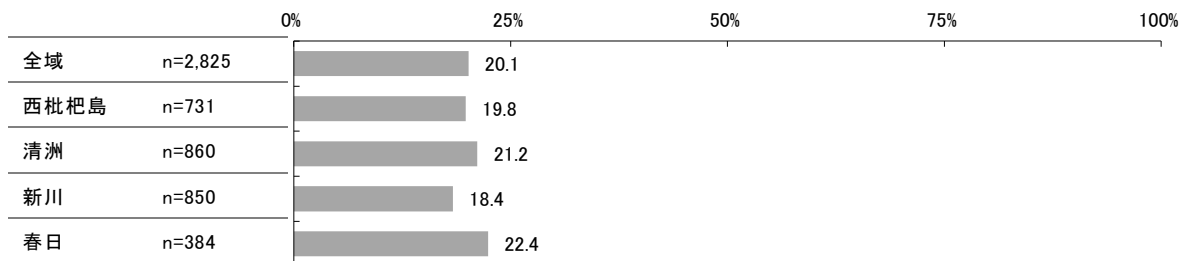
口腔リスク

・嚥む・食べる・飲み込むなどを担う口腔機能(口の中の歯茎、顎、口蓋、頬、口腔粘膜、唾液腺など)の働きが弱まっている状態を判定しています。

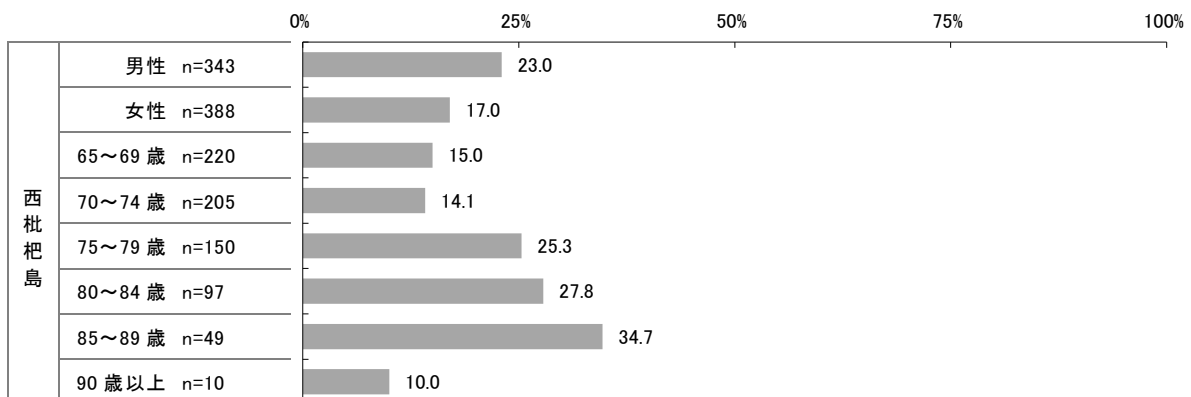
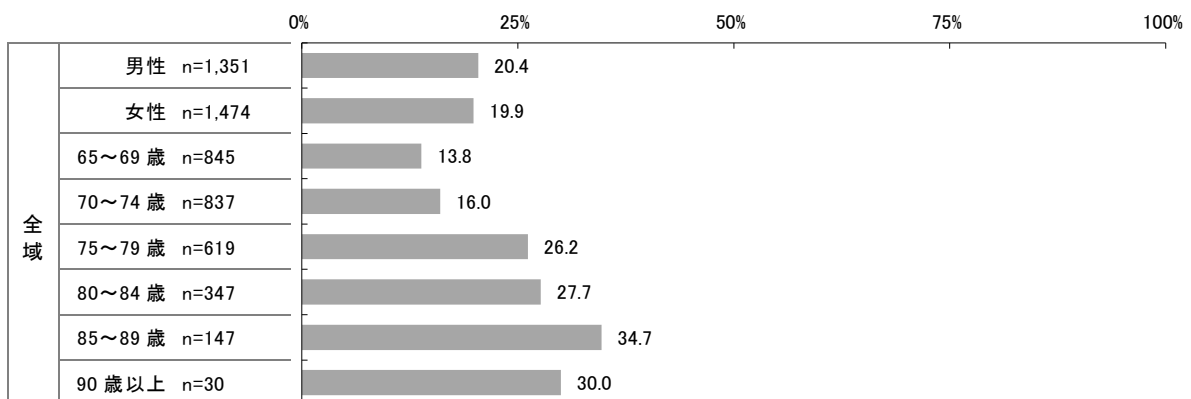
※「リスク3」に該当した方の割合になります。

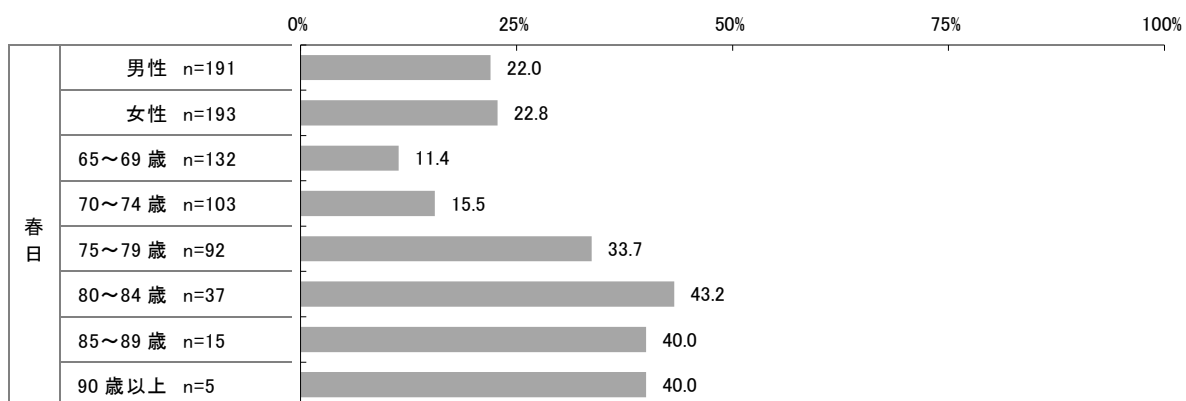
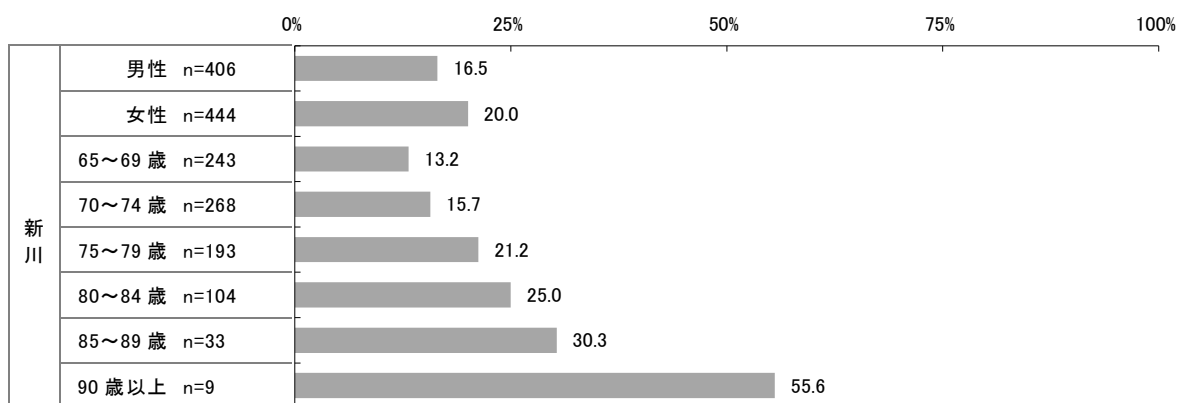
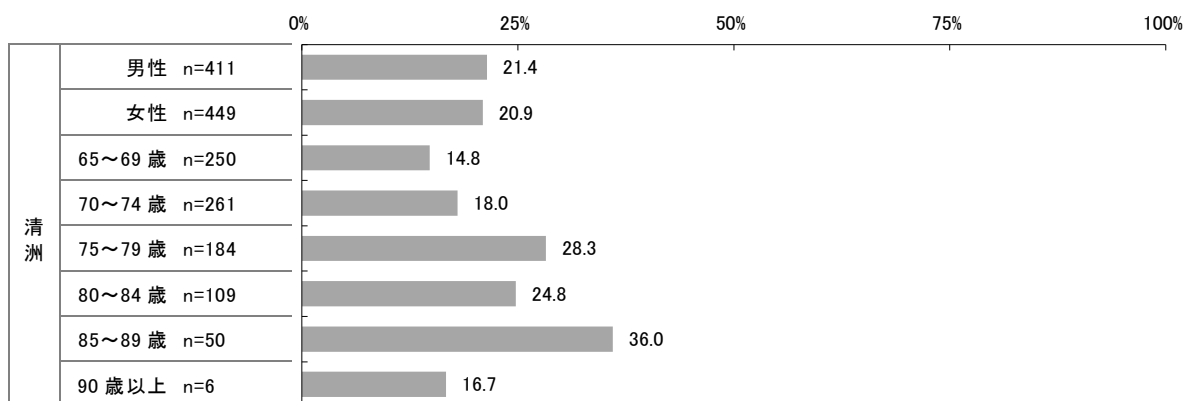
口腔リスク保有者は20.1%となっています。地区別にみると、新川地区が18.4%で最も低く、春日地区が22.4%で最も高くなっています。性別にみると、女性より男性の方がやや高くなっています。年齢階級別にみると、全域では85～89歳が最も高いですが、新川地区では90歳以上、春日地区では80～84歳が最も高くなっています。

○65歳以上高齢者の口腔リスク保有者の割合(全域・地区別)

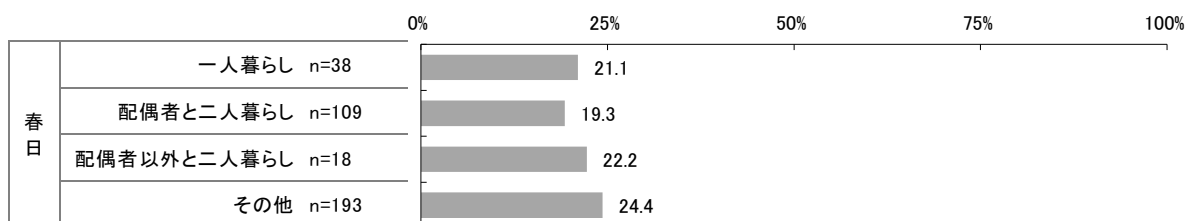
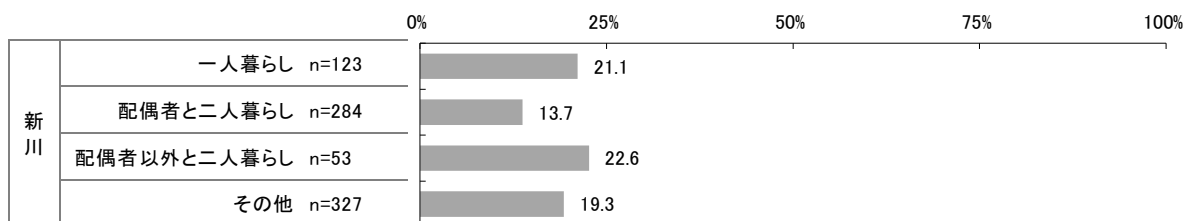
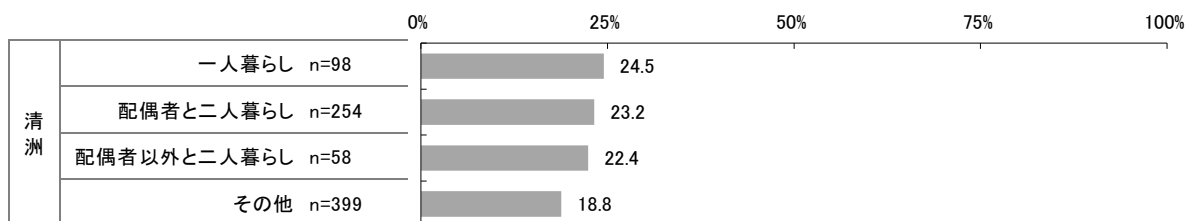
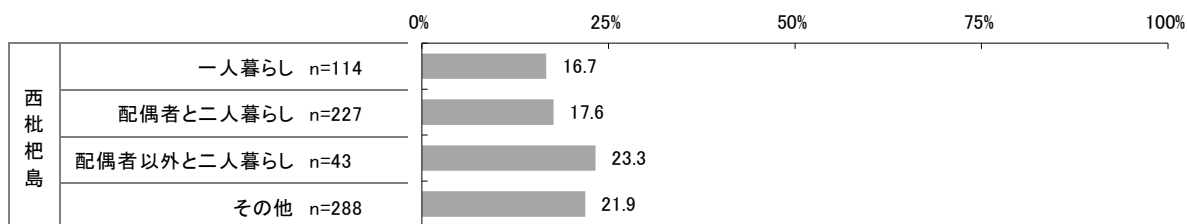
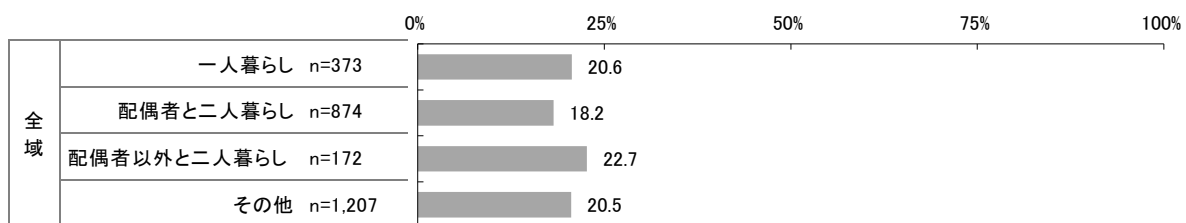


○口腔リスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○口腔リスク保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



9 閉じこもりリスク保有者の状況

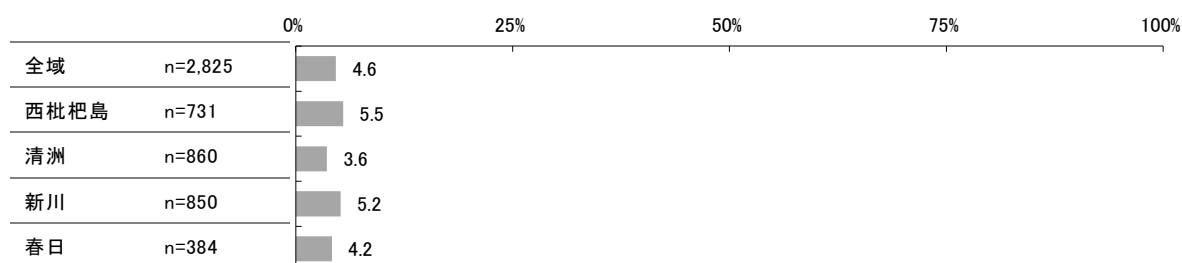
閉じこもりリスク

・家の中から出られる状態であるにもかかわらず、家から外に出ず、かつ社会的な関係性が失われている状態を判定しています。

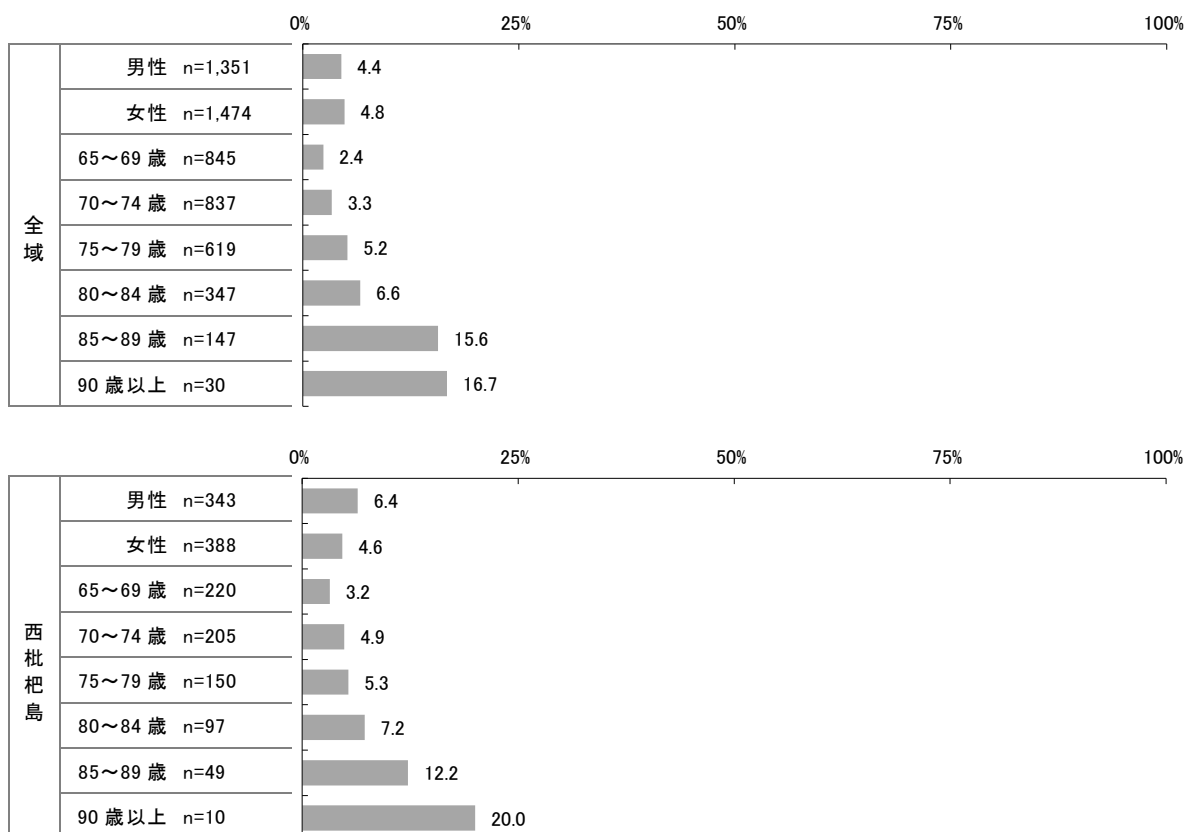
※「リスク3」に該当した方の割合になります。

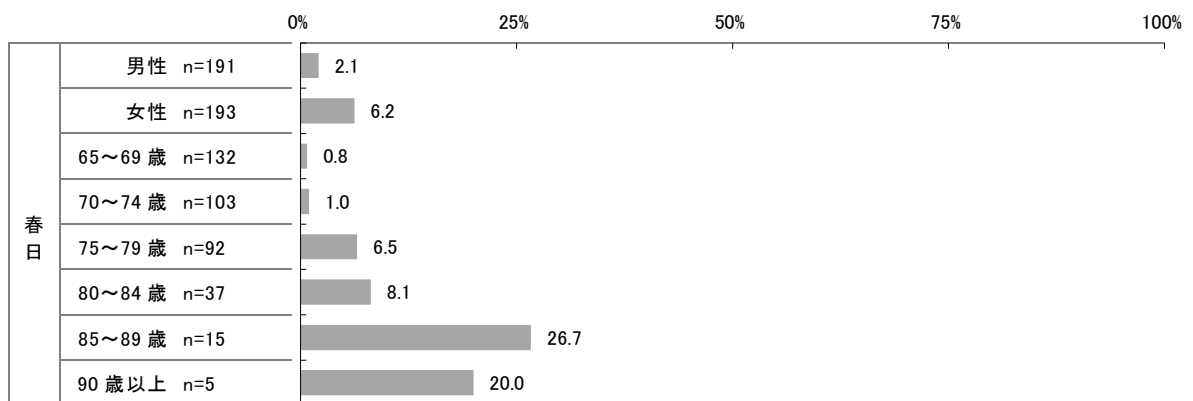
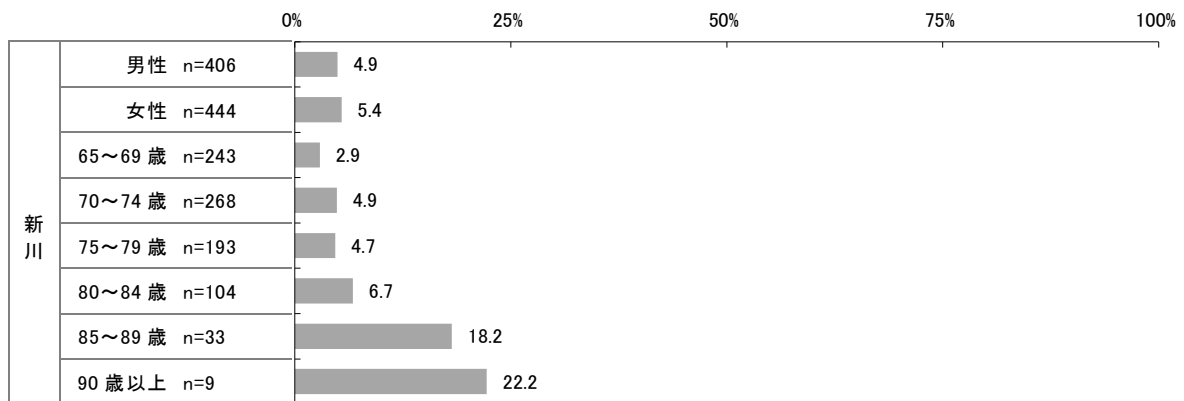
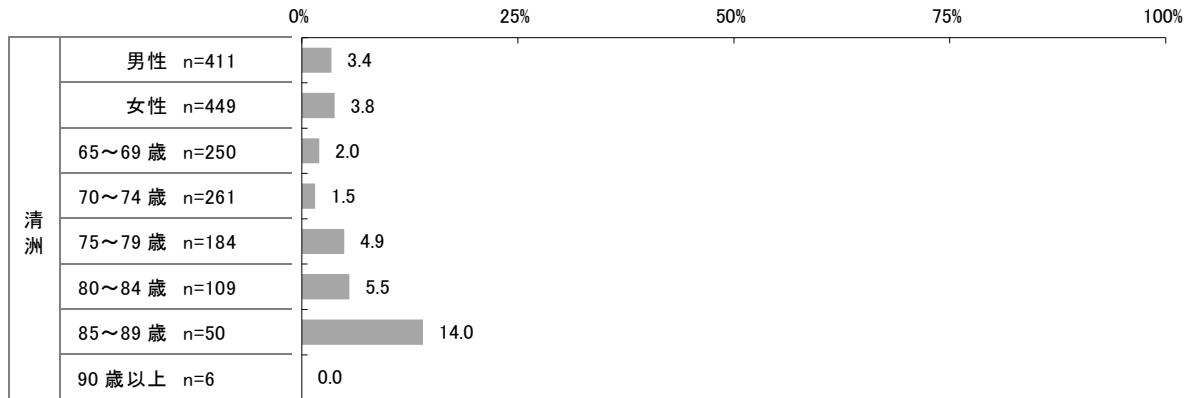
閉じこもりリスク保有者は4.6%となっています。地区別にみると、清洲地区が3.6%で最も低く、西枇杷島地区が5.5%で最も高くなっています。年齢階級別にみると、85歳以上になるとどの地区も割合が高くなっています。世帯構成別にみると、「配偶者以外と二人暮らし」が最も高く、新川地区、春日地区では他の世帯と大きな差がみられます。

○65歳以上高齢者の閉じこもりリスク保有者の割合(全域・地区別)

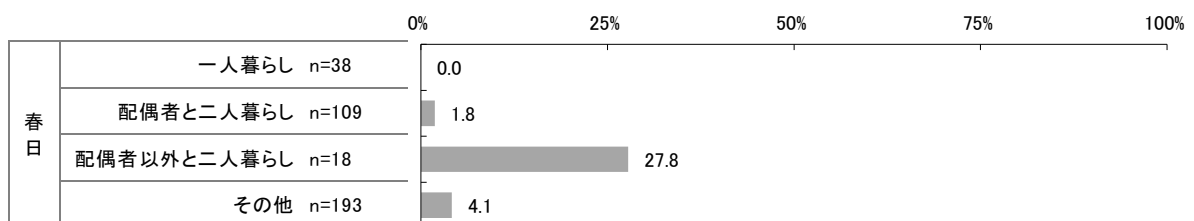
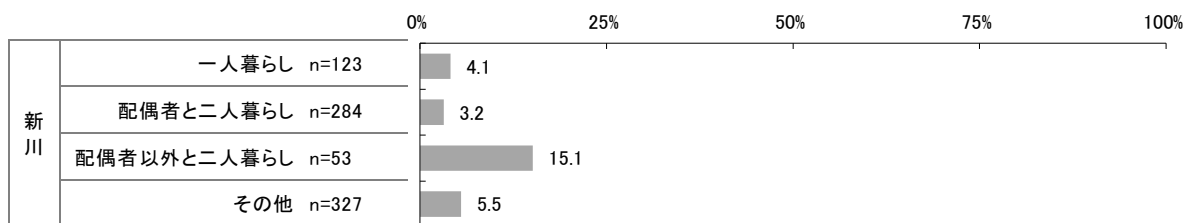
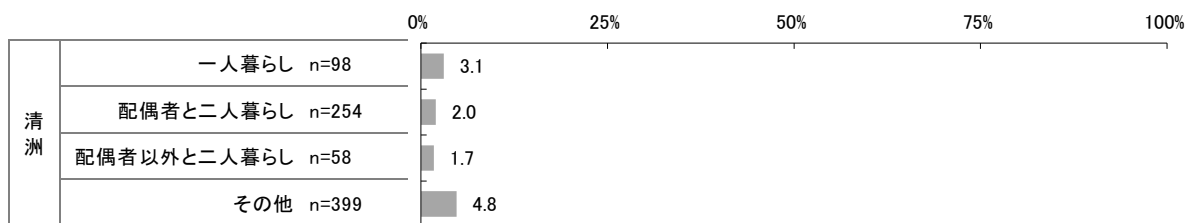
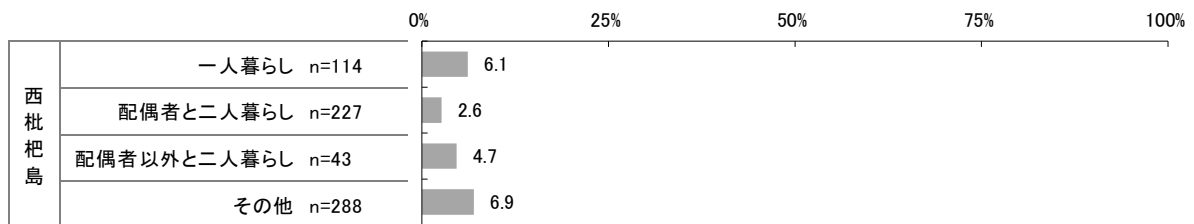
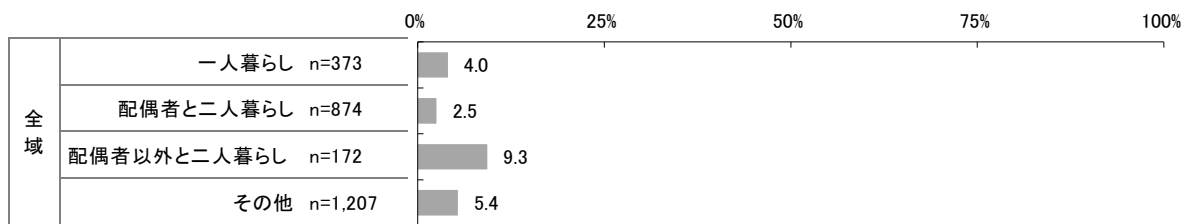


○閉じこもりリスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○閉じこもりリスク保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



10 物忘れリスク保有者の状況

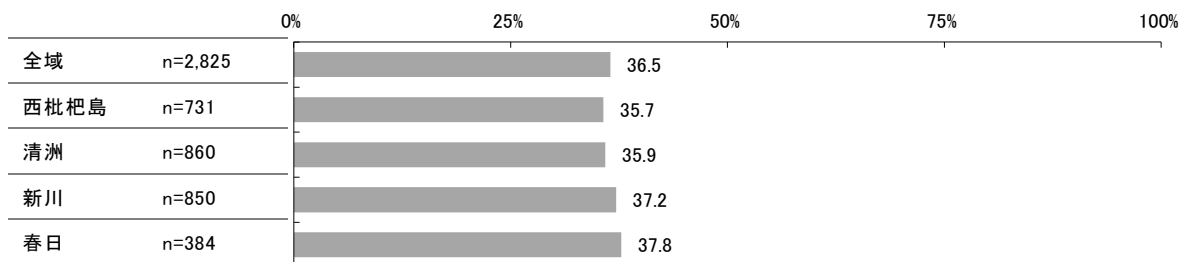
物忘れリスク

・「周りの人から物忘れがあると言われる」「自分で電話が掛けられない」「今日が何月何日かわからないときがある」等、物忘れの傾向があることを判定しています。

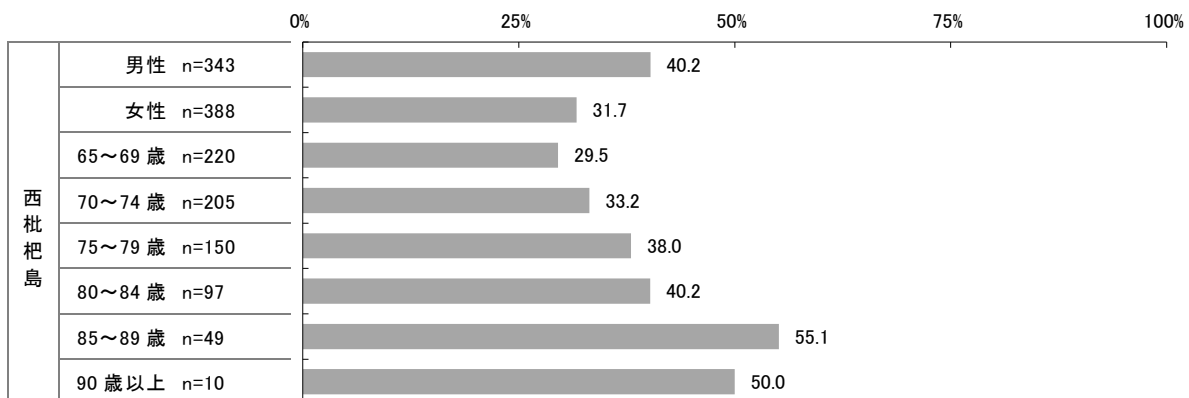
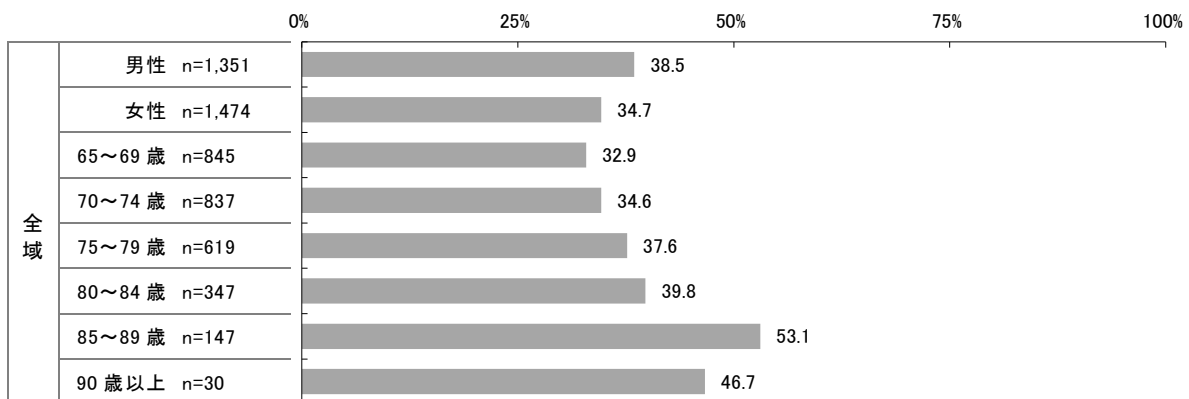
※「リスク3」に該当した方の割合になります。

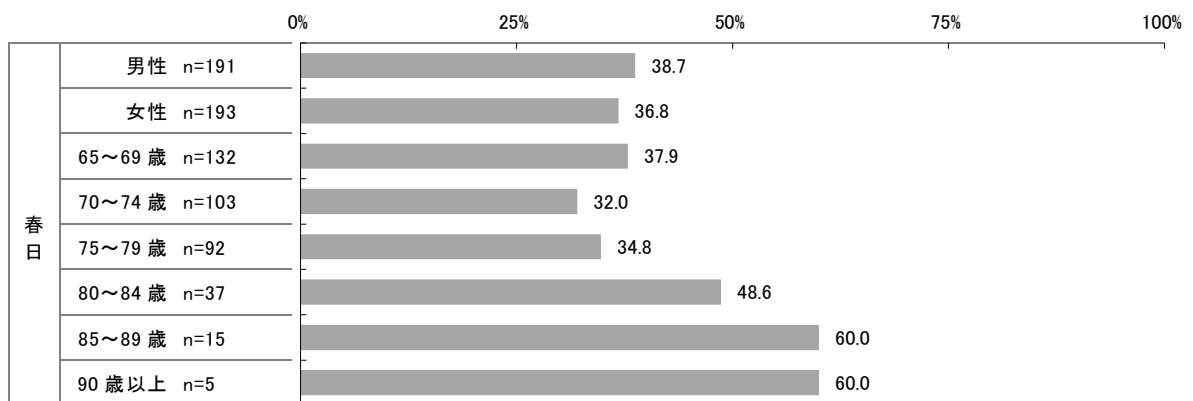
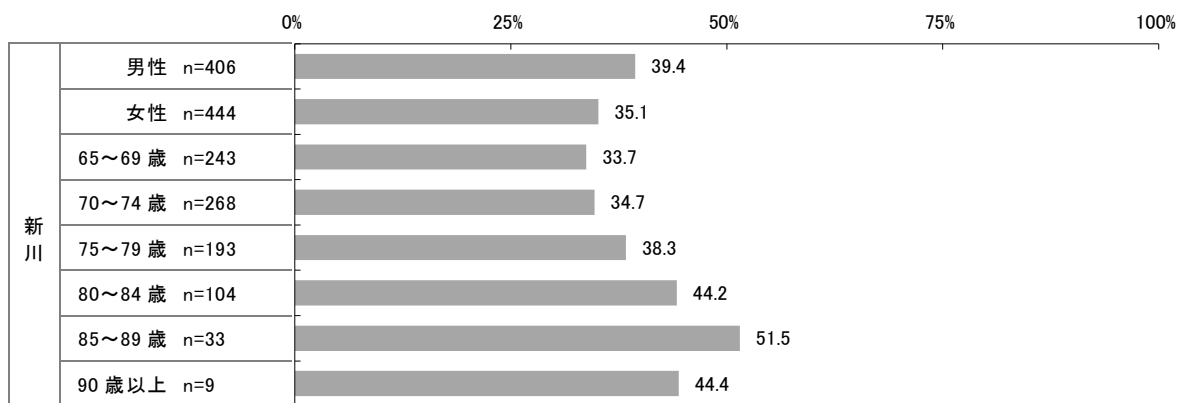
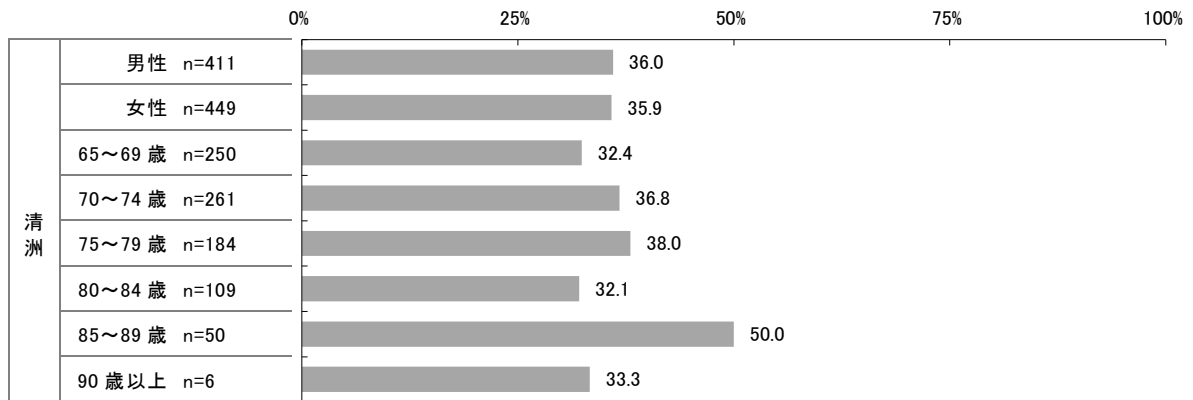
物忘れリスク保有者は36.5%となっています。性別にみると、女性より男性の方が高くなっています。年齢階級別にみると、85～89歳はどの地区も5割を超えています。

○65歳以上高齢者の物忘れリスク保有者の割合(全域・地区別)

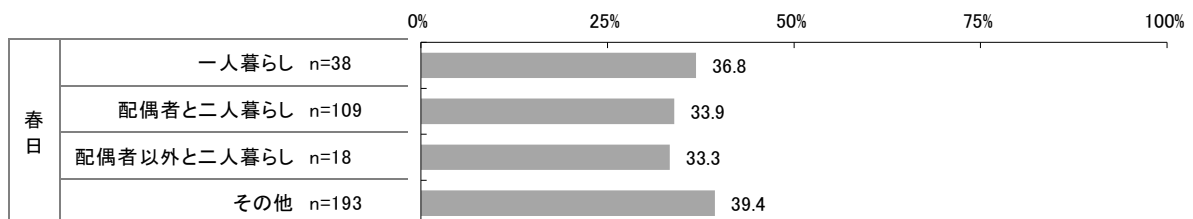
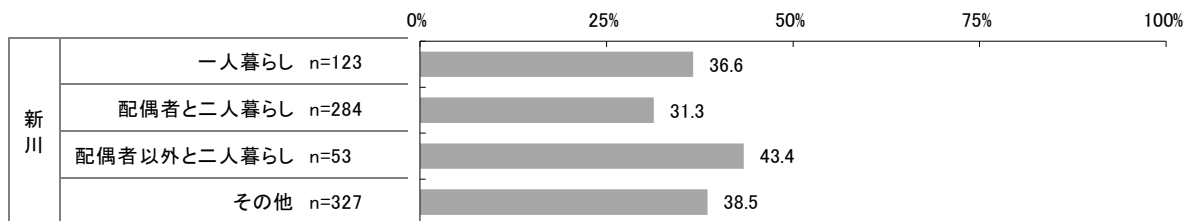
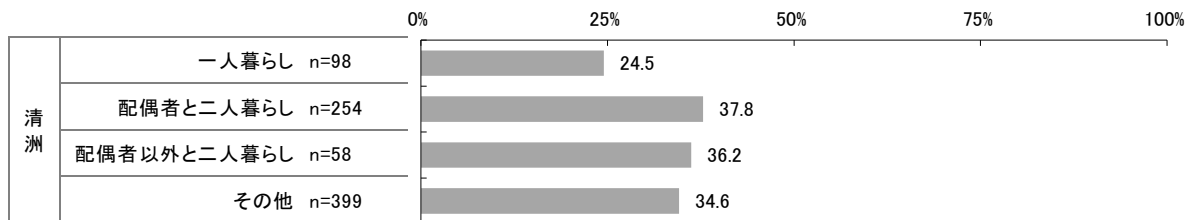
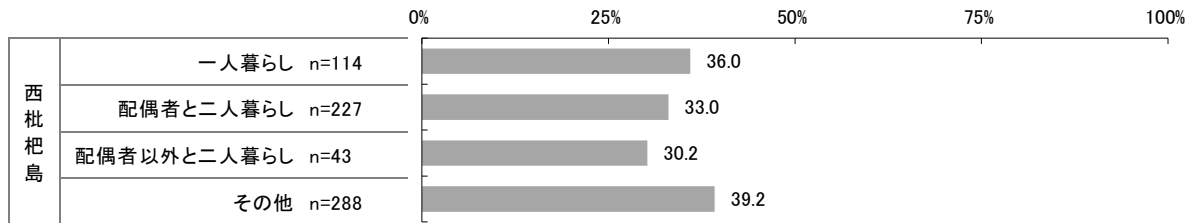
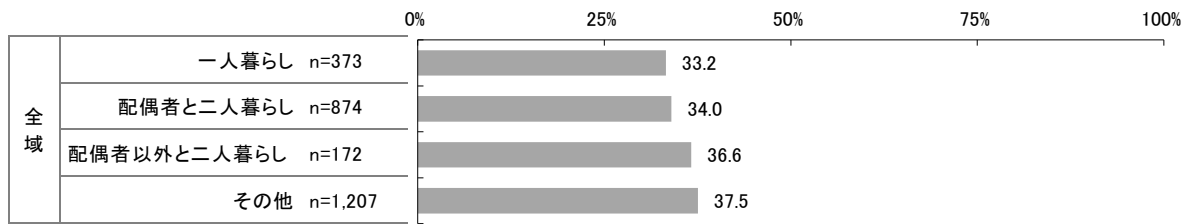


○物忘れリスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○物忘れリスク保有者の世帯構成ごとの割合(全域・地区別)



11 うつリスク保有者の状況

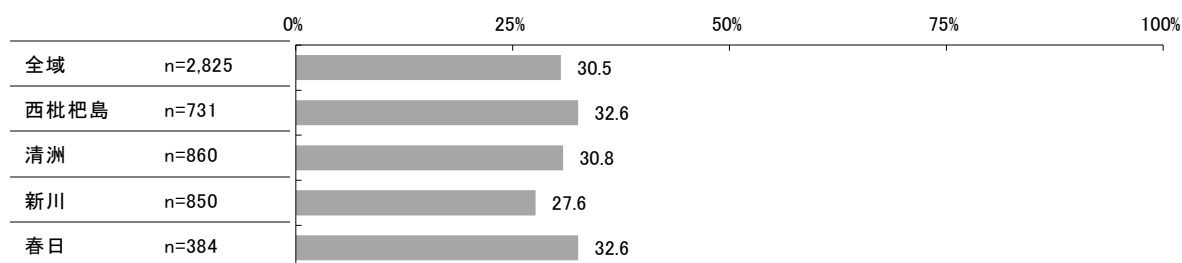
うつリスク

・「毎日の生活に充実感がない」「自分が役に立つ人間だと思えない」「わけもなく疲れたような感じがする」など、うつ傾向があることを判定しています。

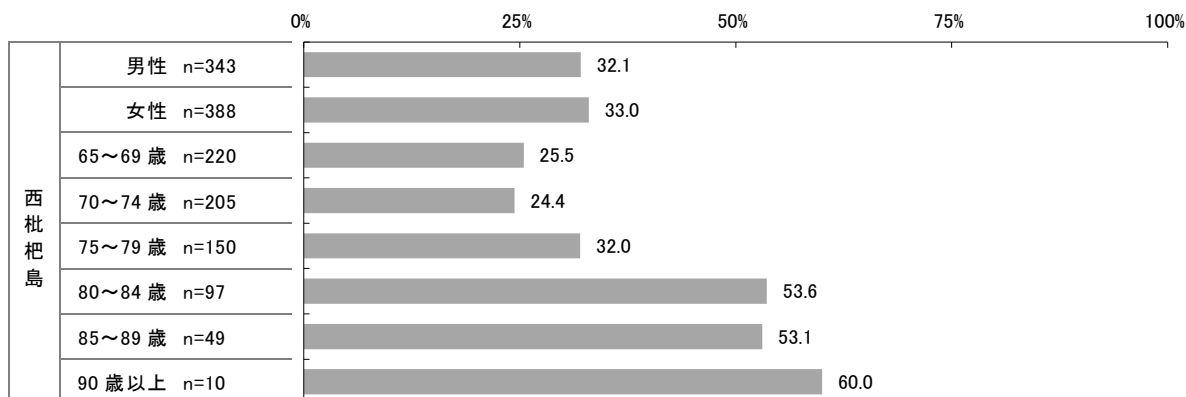
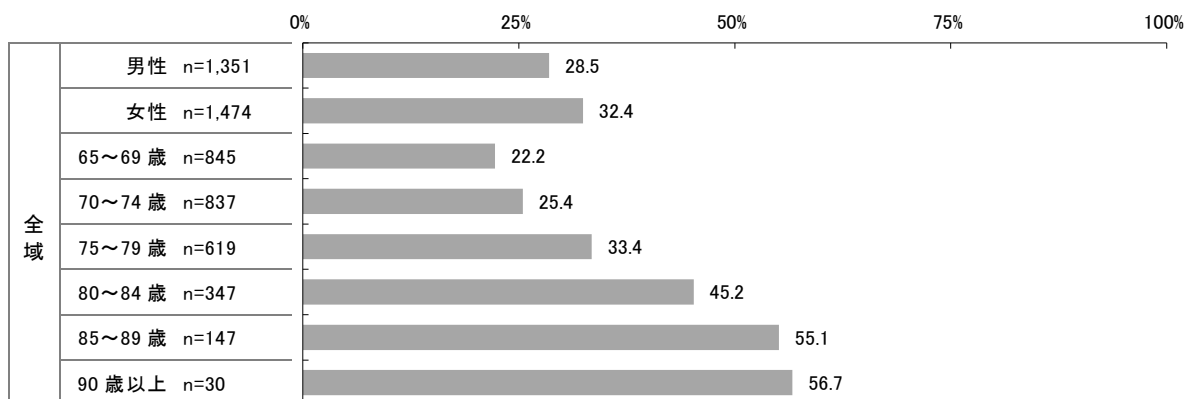
※「リスク3」に該当した方の割合になります。

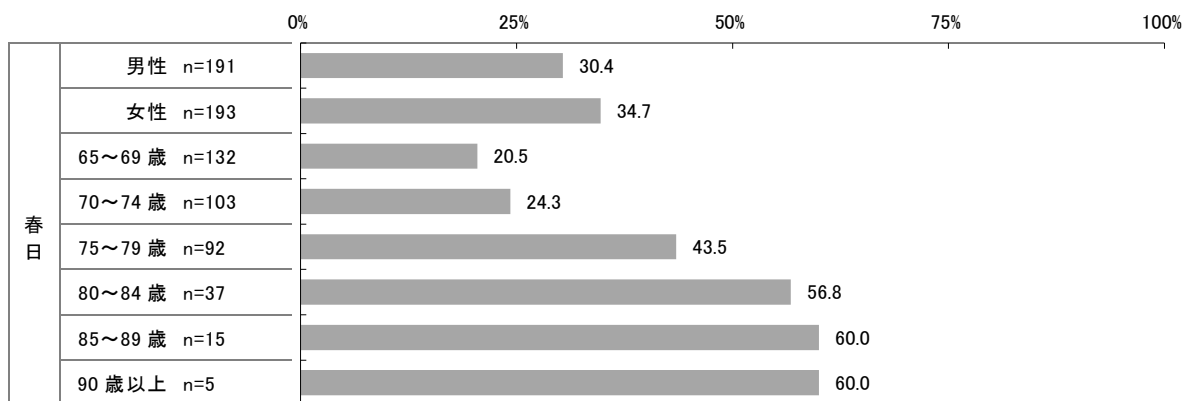
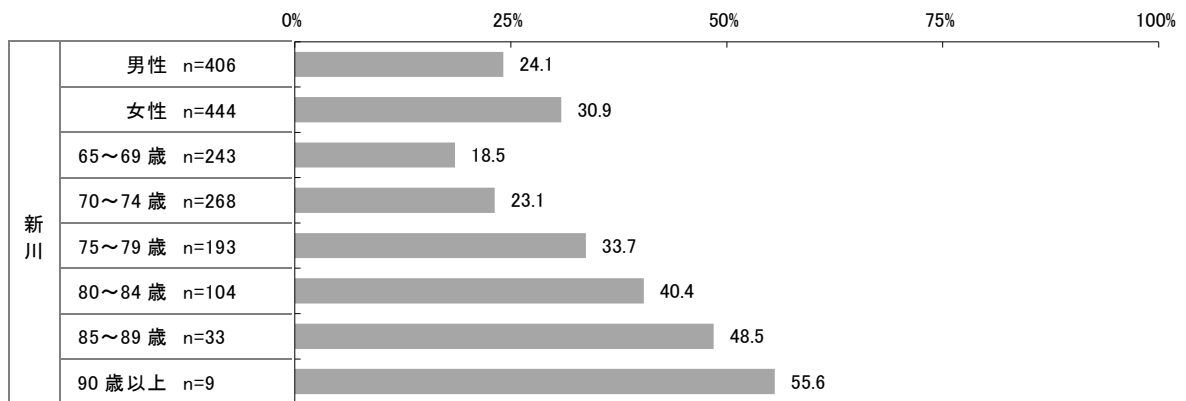
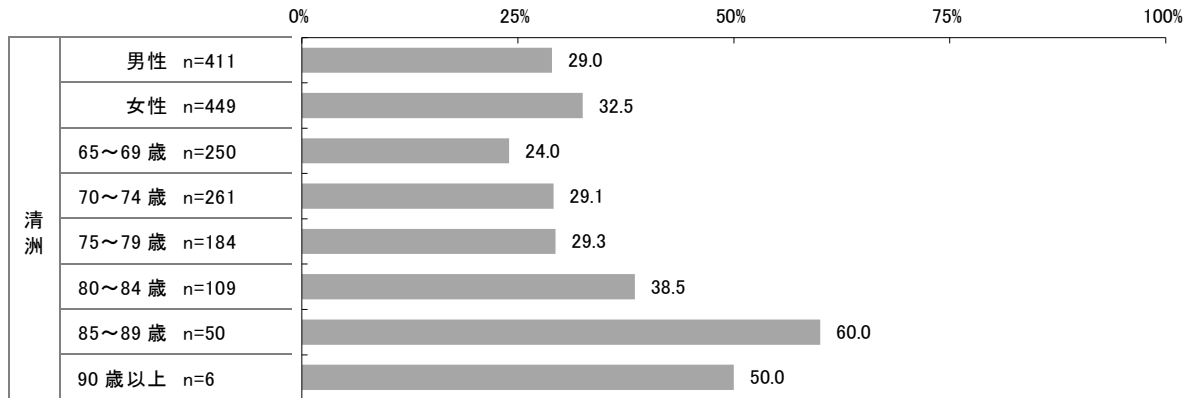
うつリスク保有者は30.5%となっています。性別にみると、男性より女性の方が高くなっています。年齢階級別にみると、85歳以上になると5割を超えています。世帯構成別にみると、「配偶者以外と二人暮らし」が他の世帯よりも高く、西枇杷島地区、春日地区では約5割となっています。

○65歳以上高齢者のうつリスク保有者の割合（全域・地区別）

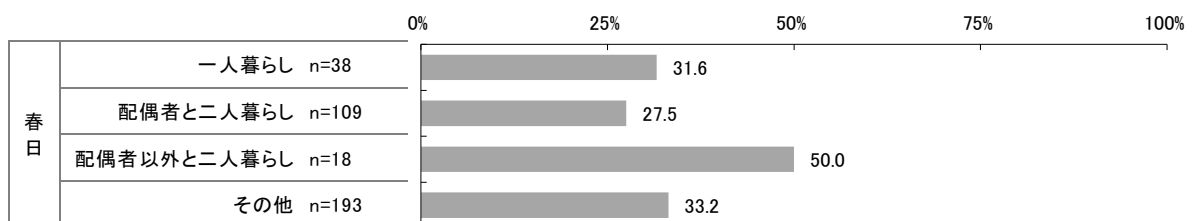
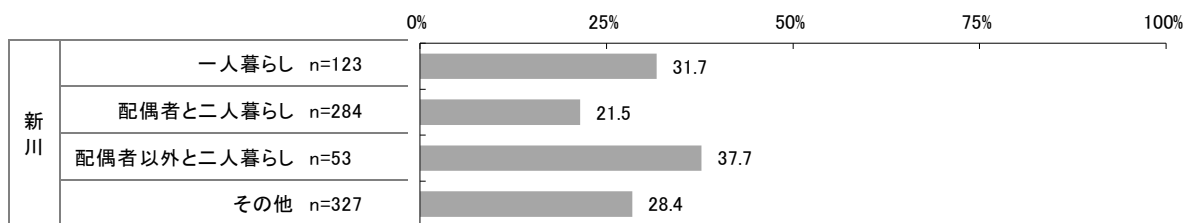
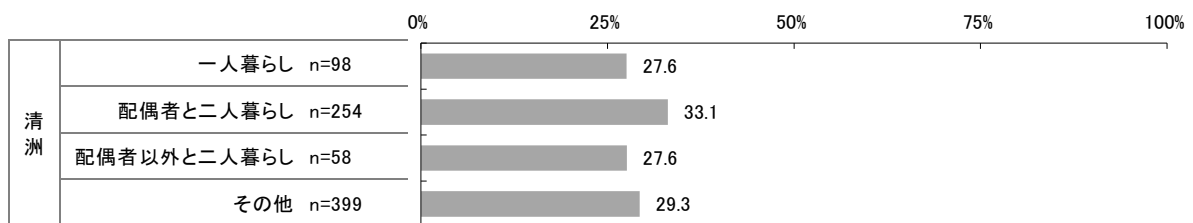
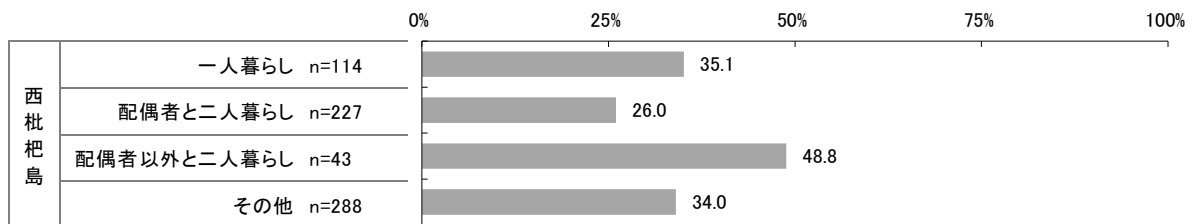
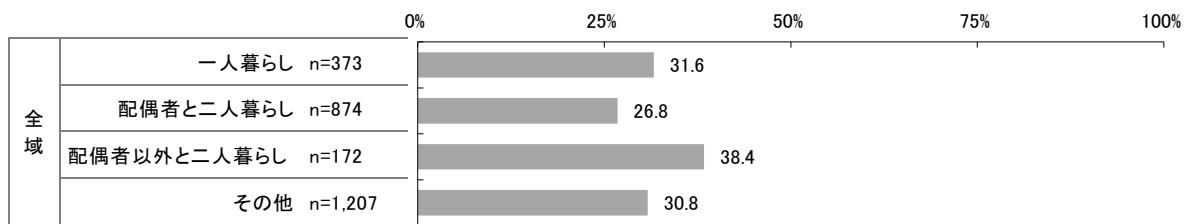


○うつリスク保有者の性別・年齢ごとの割合（全域・地区別）





〇うつリスク保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



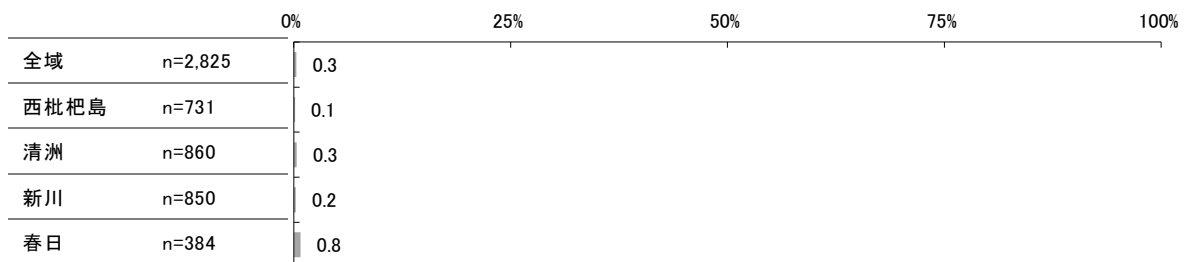
12 日常生活動作（ADL）低下者の割合

日常生活動作（ADL）低下者

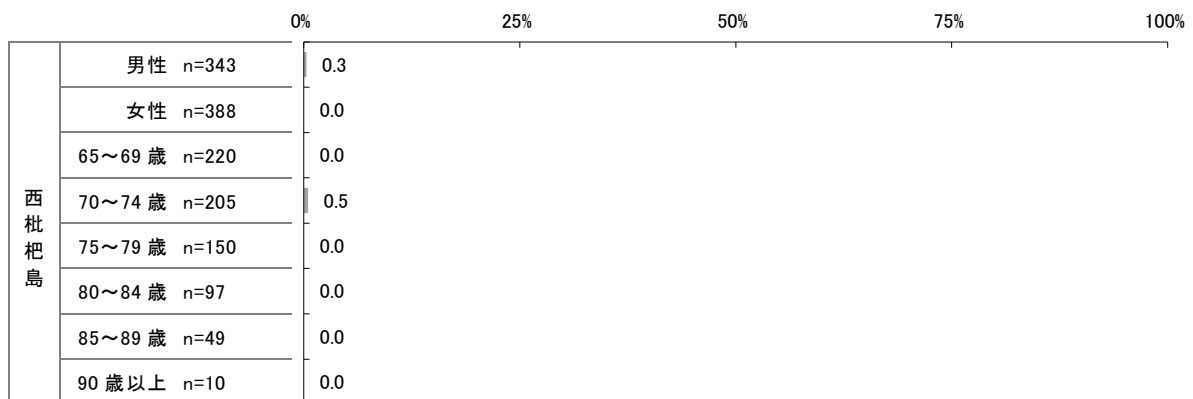
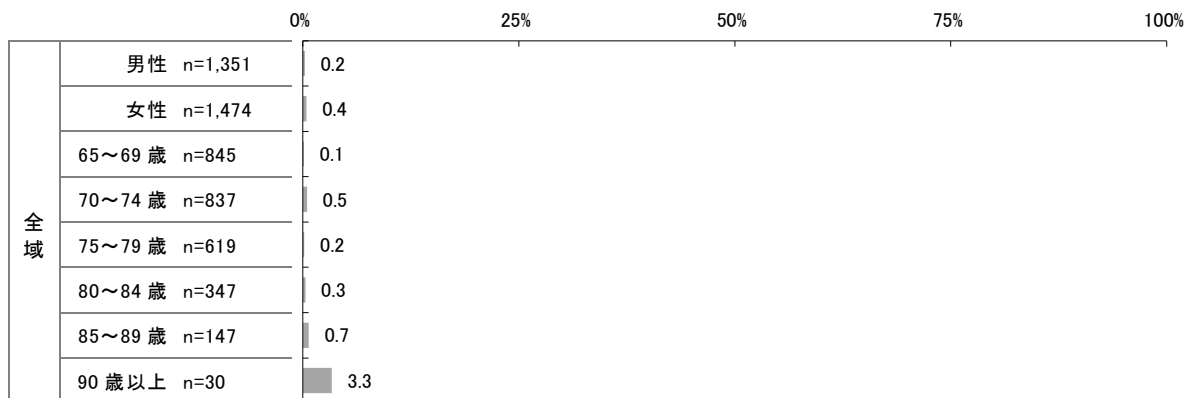
・歩行、階段昇降、食事、排せつなど文字どおり生きていく上で基本となる能力の低下を判定しています。
※「ほぼすべてに介助が必要」「起居移動に介助が必要」に該当した方の割合になります。

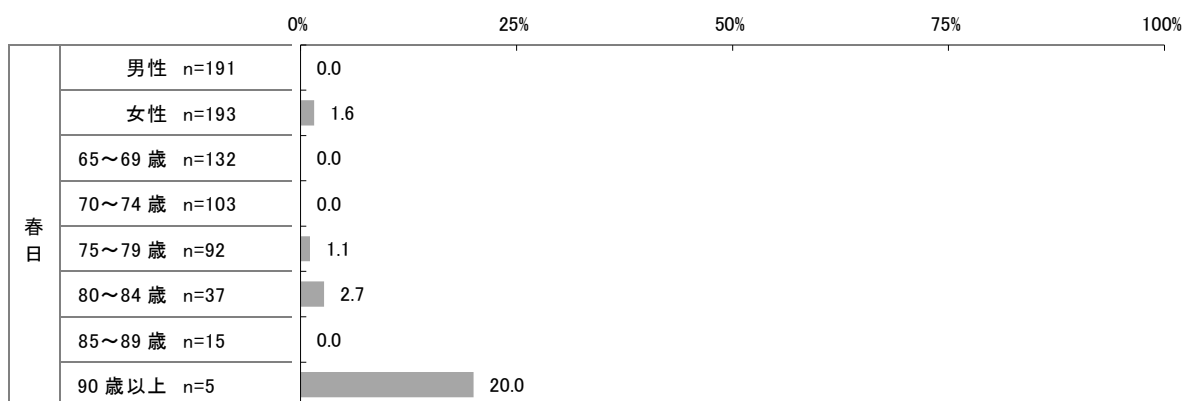
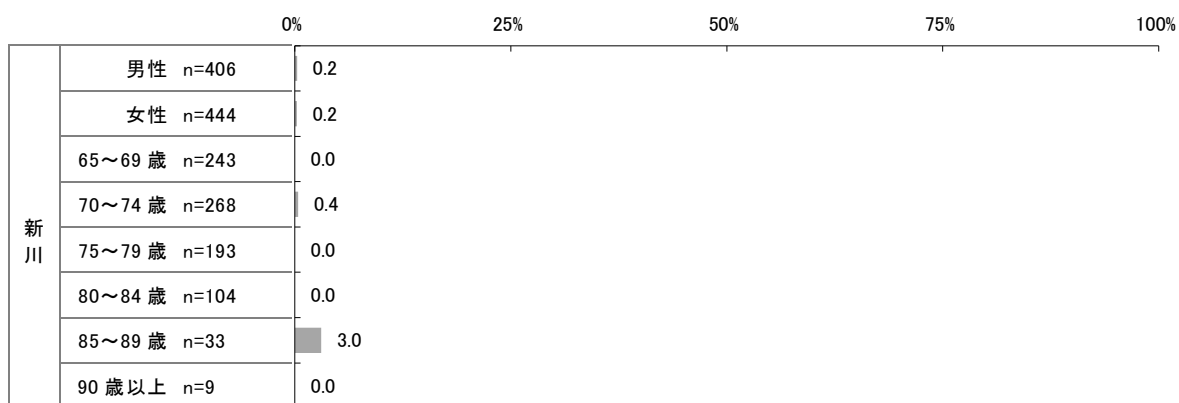
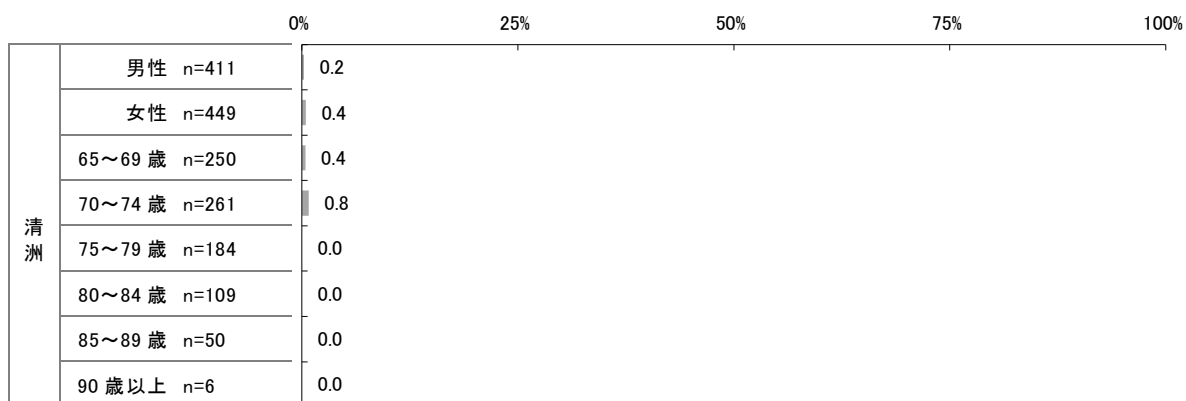
日常生活動作（ADL）低下者は0.3%となっています。どの地区も1%に満たない低い割合となっています。

○65歳以上高齢者の日常生活動作（ADL）低下者の割合（全域・地区別）

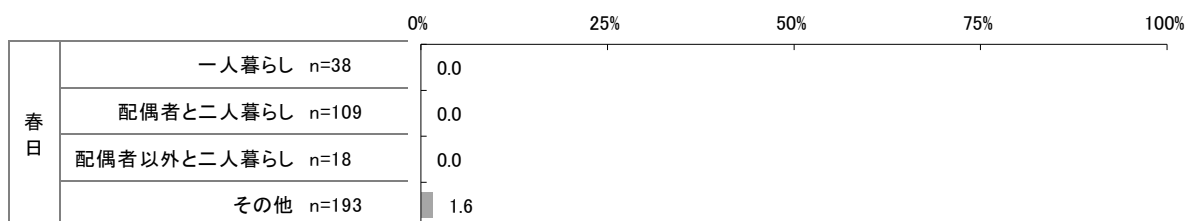
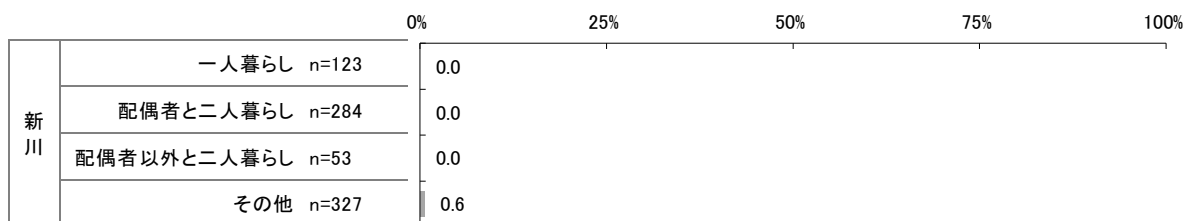
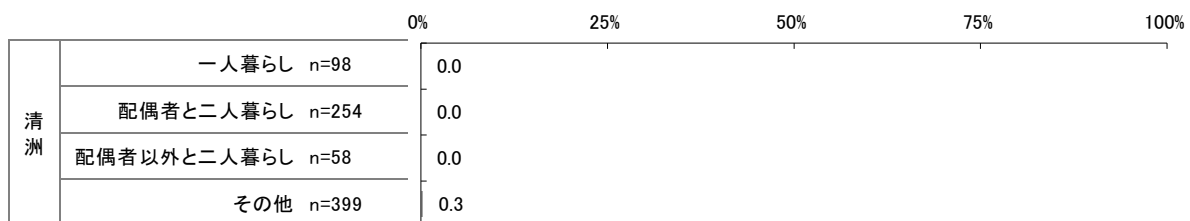
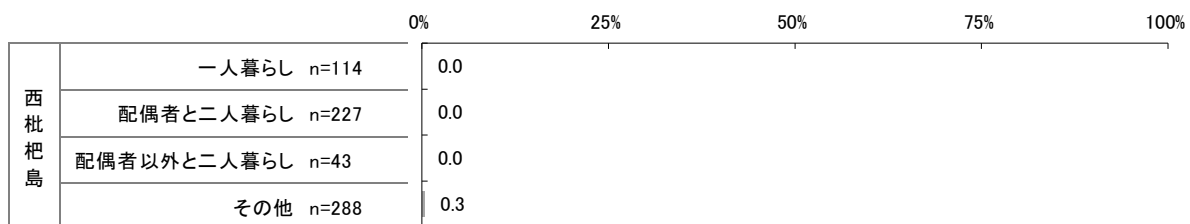
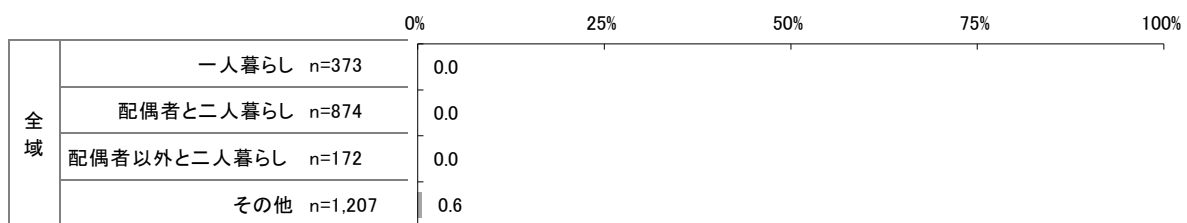


○日常生活動作（ADL）低下者の性別・年齢ごとの割合（全域・地区別）





○日常生活動作(ADL)低下者の世帯構成ごとの割合(全域・地区別)



13 手段的自立度（IADL）低下者の割合

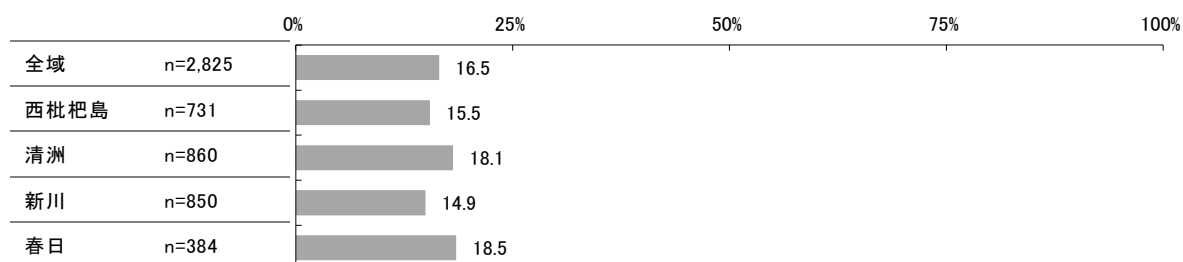
手段的自立度(IADL)低下者

・買い物をしたり、銀行でお金を引き出したりするなどの能力の低下を判定しています。

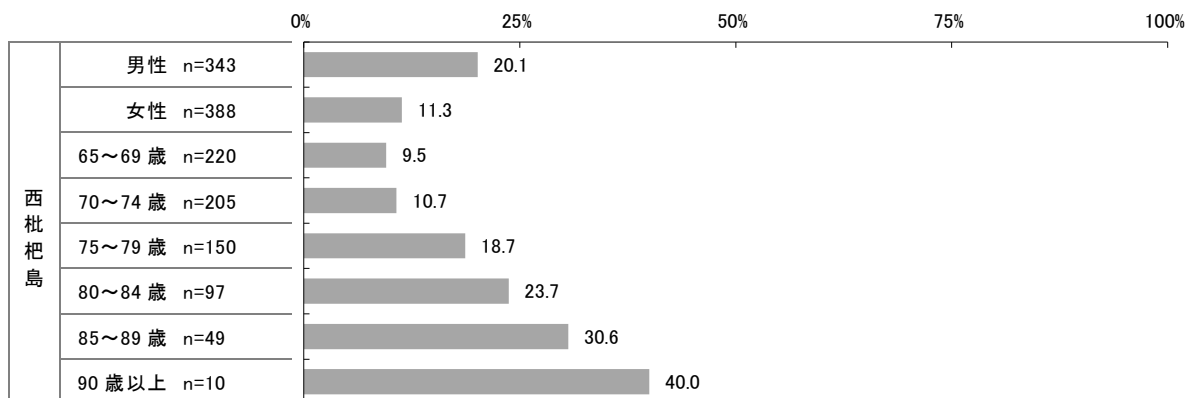
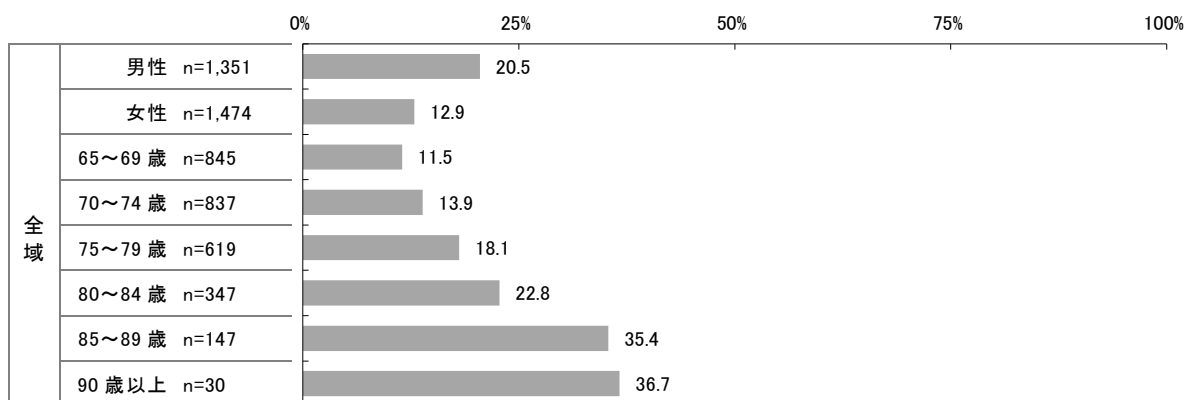
※「低い」「やや低い」に該当した方の割合になります。

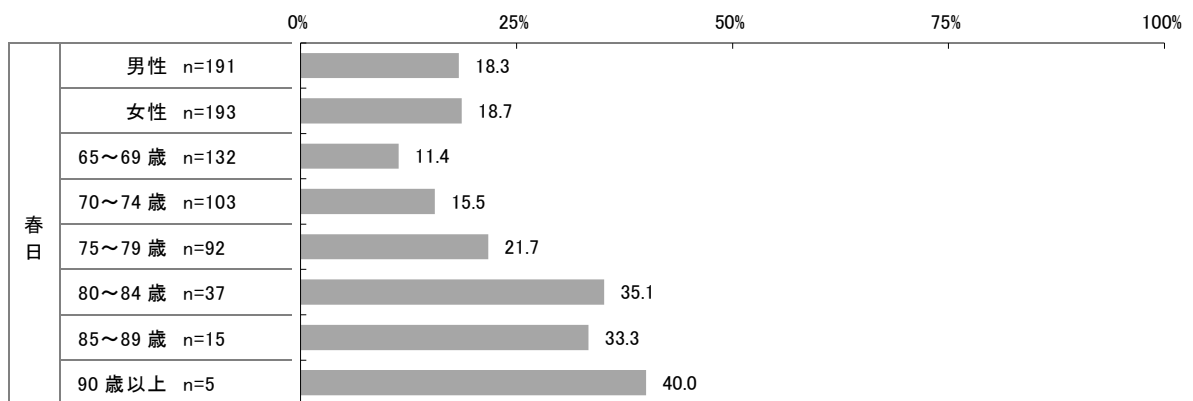
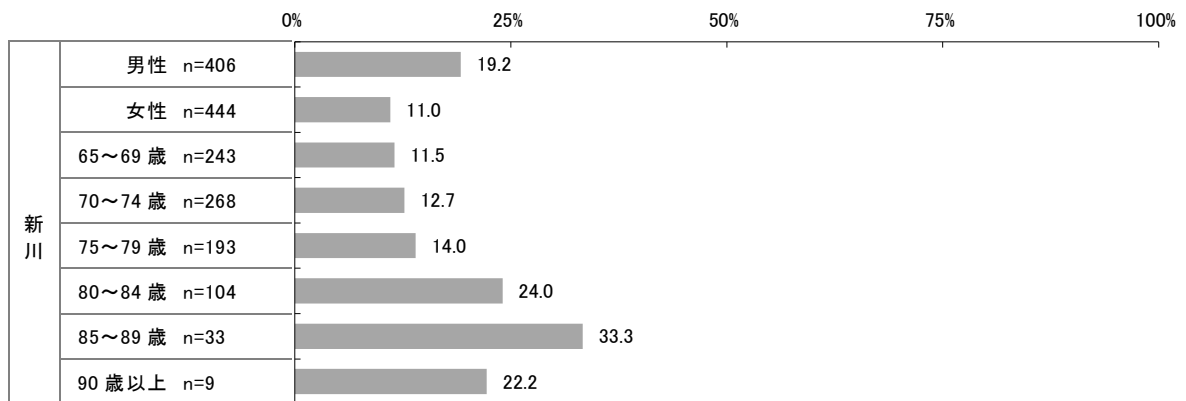
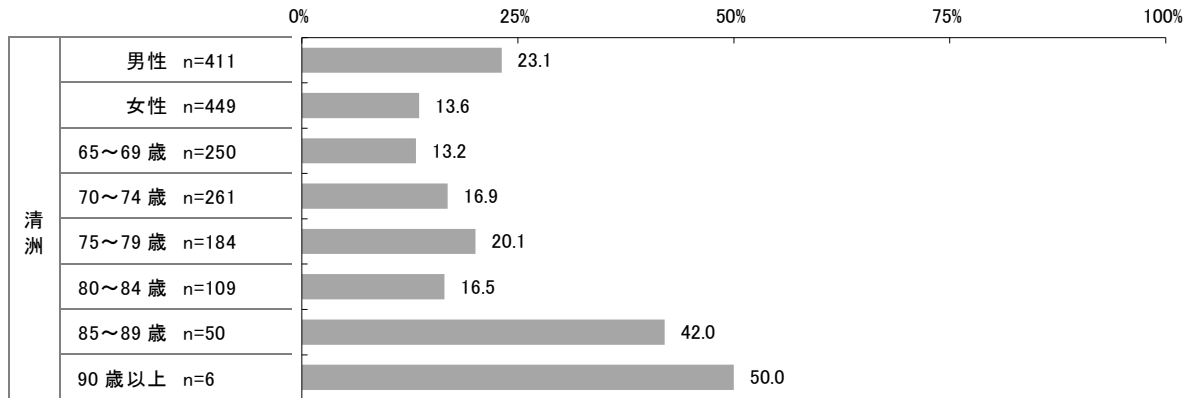
手段的自立度（IADL）低下者は16.5%となっています。性別にみると、女性より男性の方が高くなっています。年齢階級別にみると、85歳以上になると3割を超えています。

○65歳以上高齢者の手段的自立度(IADL)低下者の割合(全域・地区別)

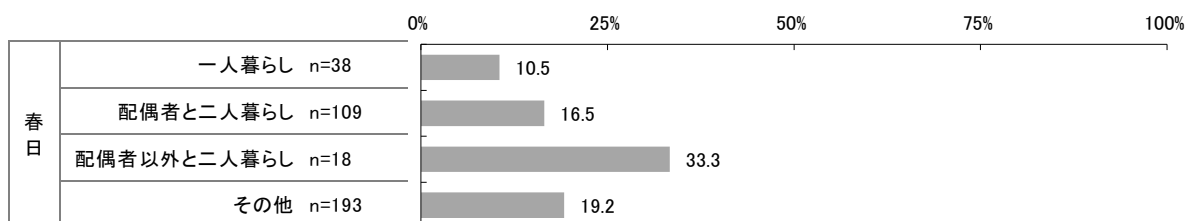
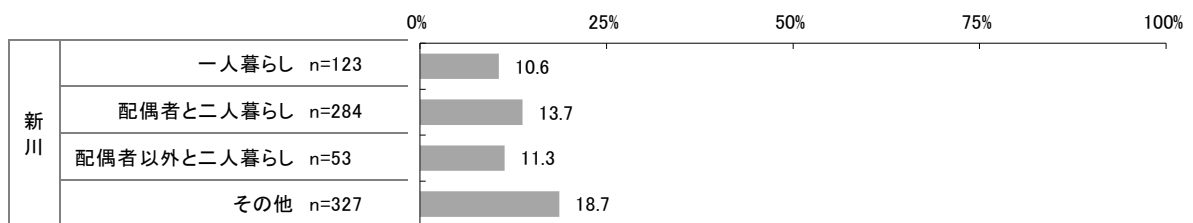
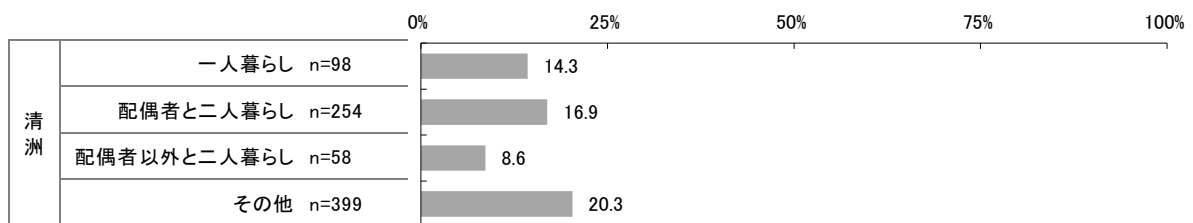
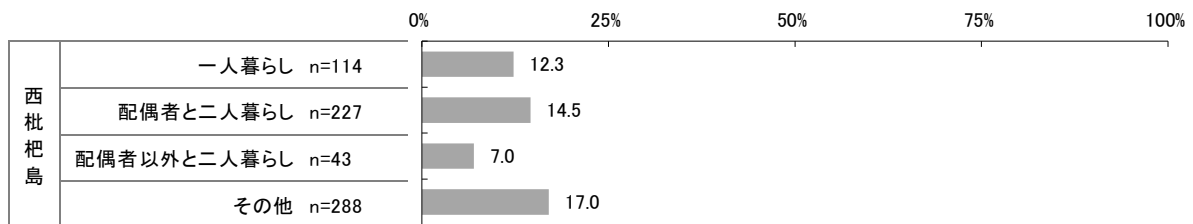
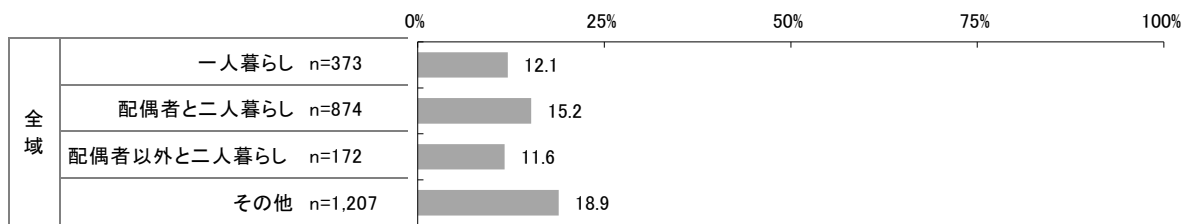


○手段的自立度(IADL)低下者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○手段的自立度(IADL)低下者の世帯構成ごとの割合(全域・地区別)



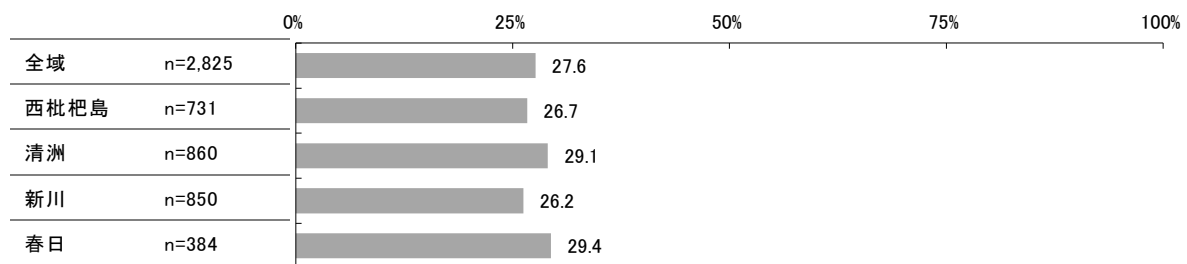
14 生活機能（知的能動性）低下者の割合

生活機能（知的能動性）低下者

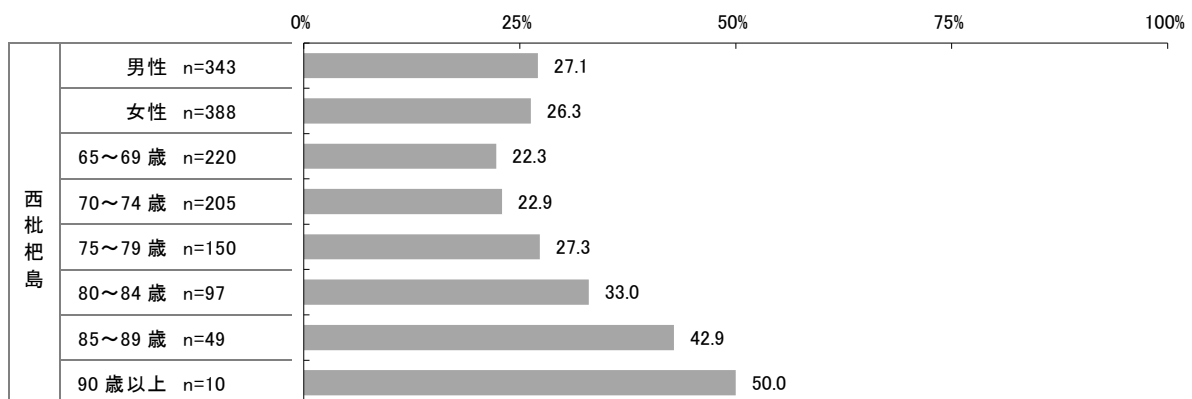
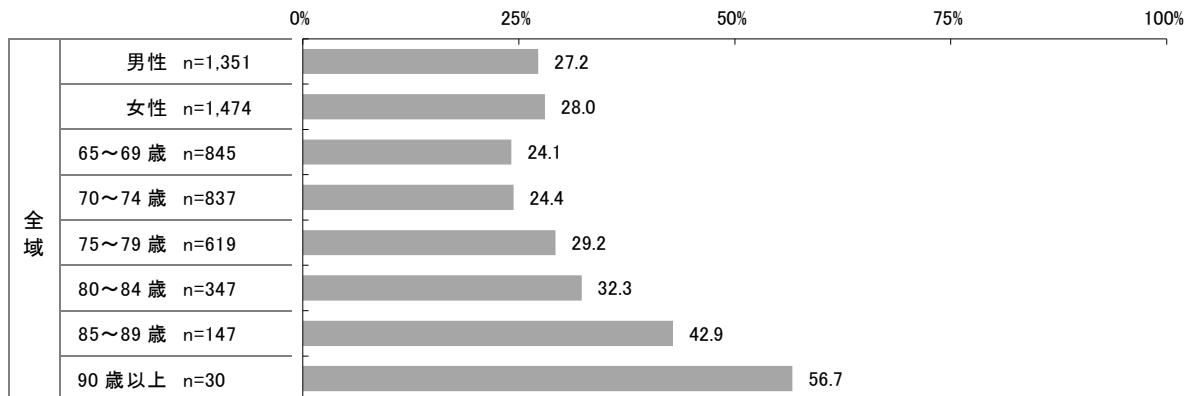
- ・知的能動性とは、年金などの書類を書く、新聞や本などの読書、健康情報への関心など、余暇や創作など生活を楽しむ能力の低下を判定しています。
- ※「低い」「やや低い」に該当した方の割合になります。

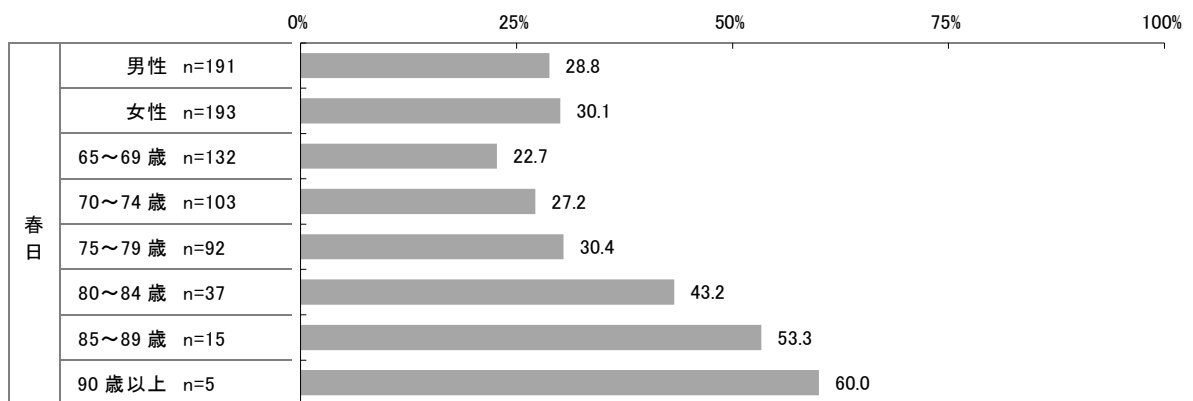
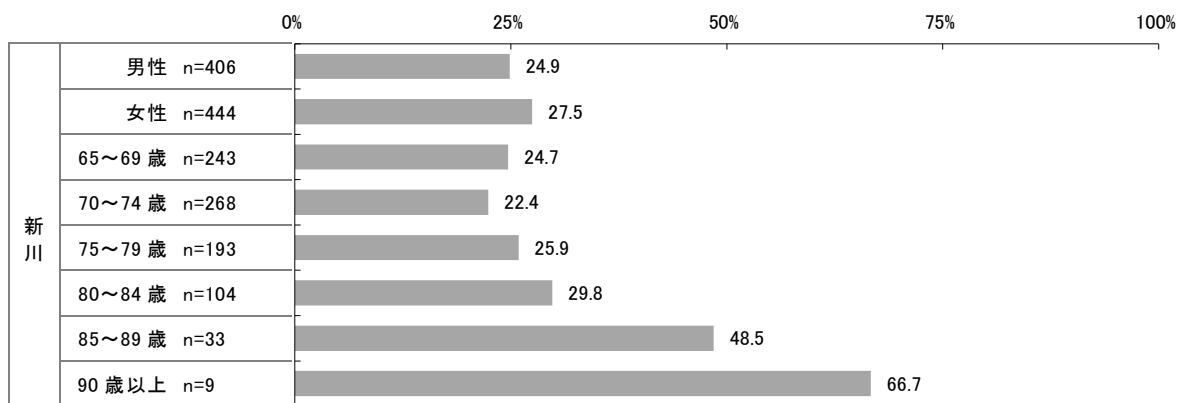
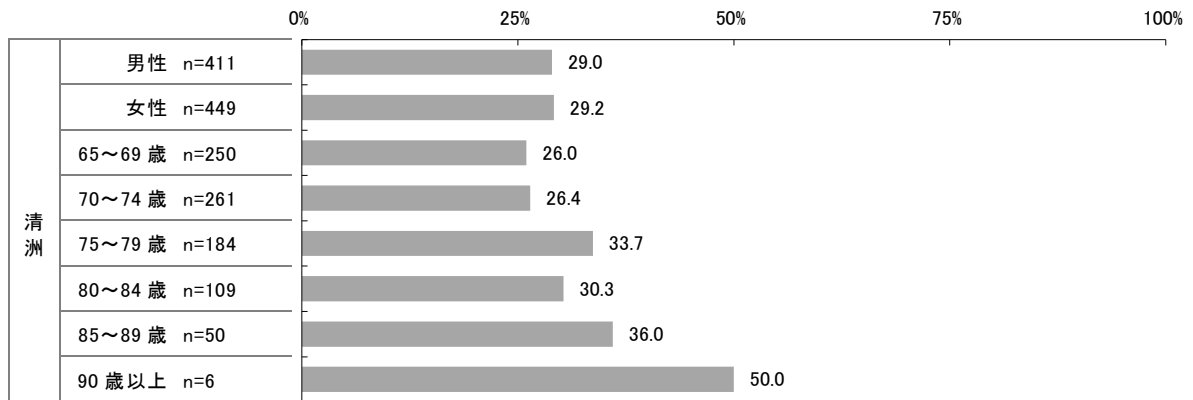
生活機能（知的能動性）低下者は27.6%となっており、地区別でも大きな差はみられません。性別にみると、男性より女性の方がやや高くなっています。年齢階級別にみると、どの地区も90歳以上が最も高くなっています。

○65歳以上高齢者の生活機能（知的能動性）低下者の割合（全域・地区別）

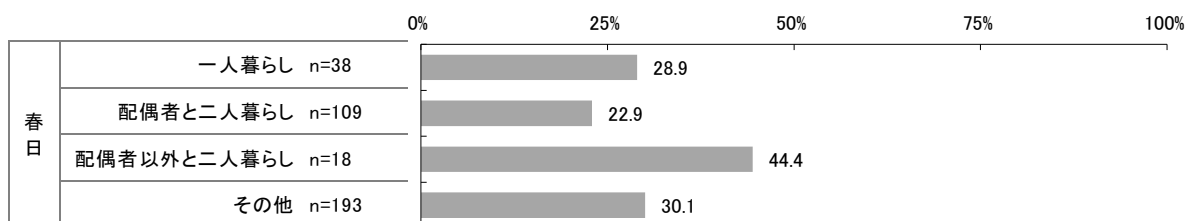
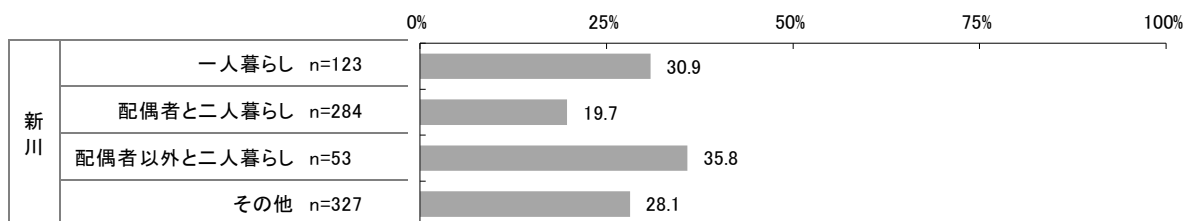
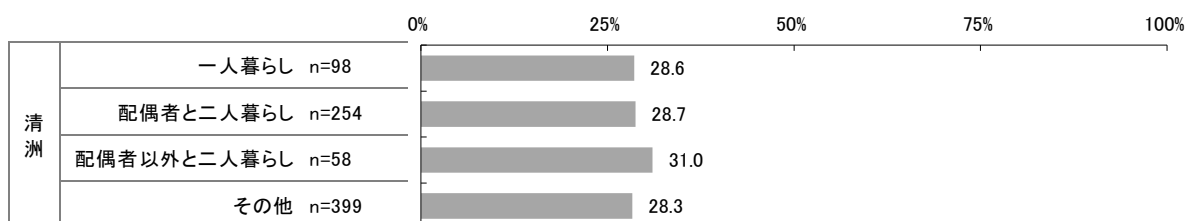
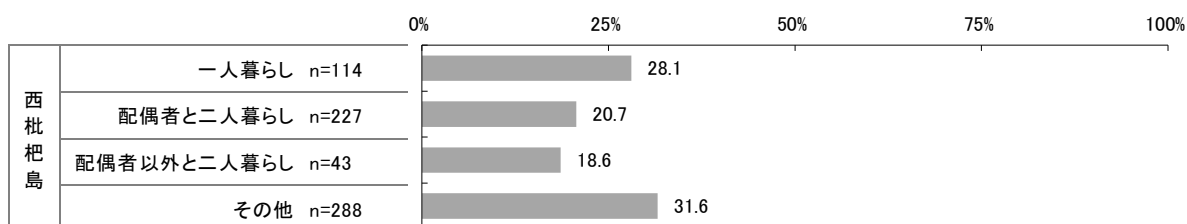
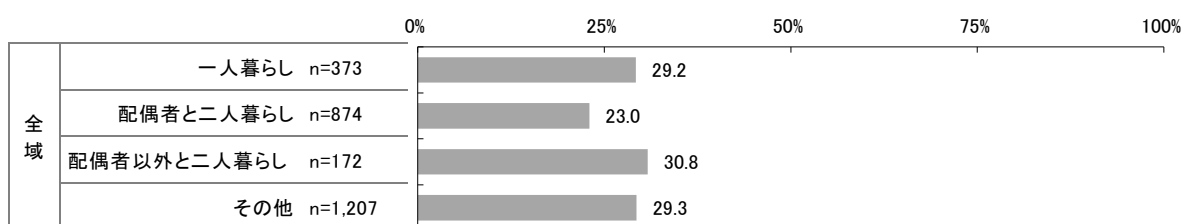


○生活機能（知的能動性）低下者の性別・年齢ごとの割合（全域・地区別）





○生活機能(知的能動性)低下者の世帯構成ごとの割合(全域・地区別)



15 生活機能（社会的役割）低下者の割合

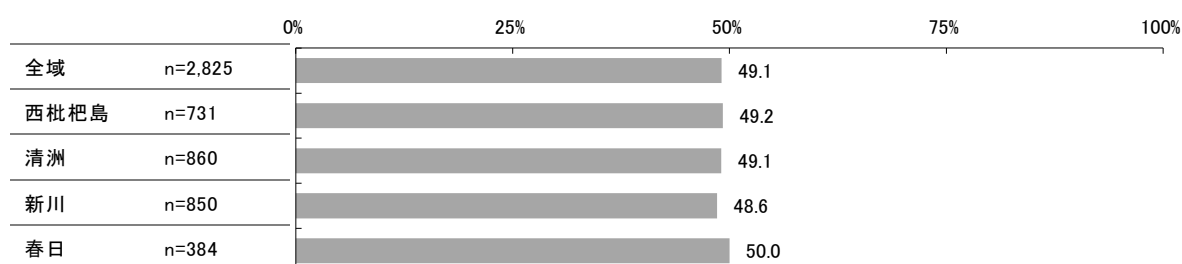
生活機能（社会的役割）低下者

・社会的役割とは、主に友人宅への訪問、他人の相談、見舞いなど、地域で社会的な役割をはたす能力の低下を判定しています。

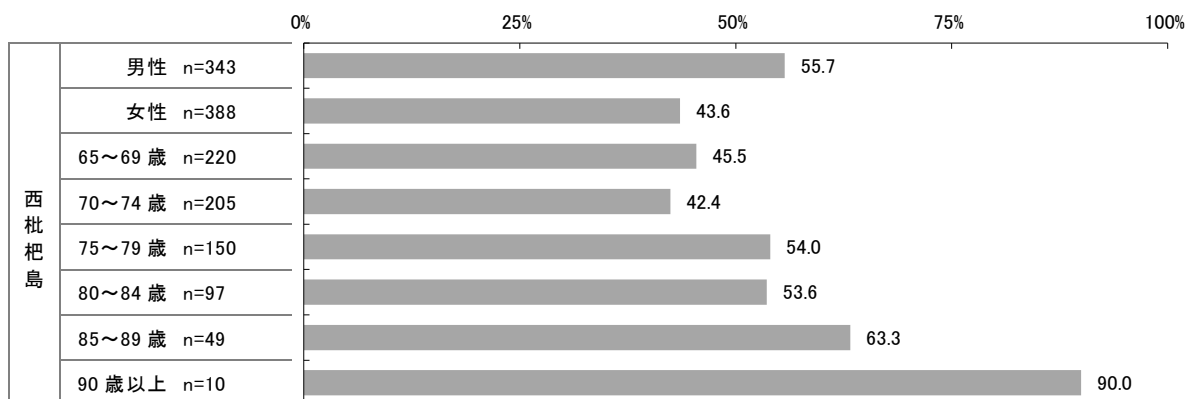
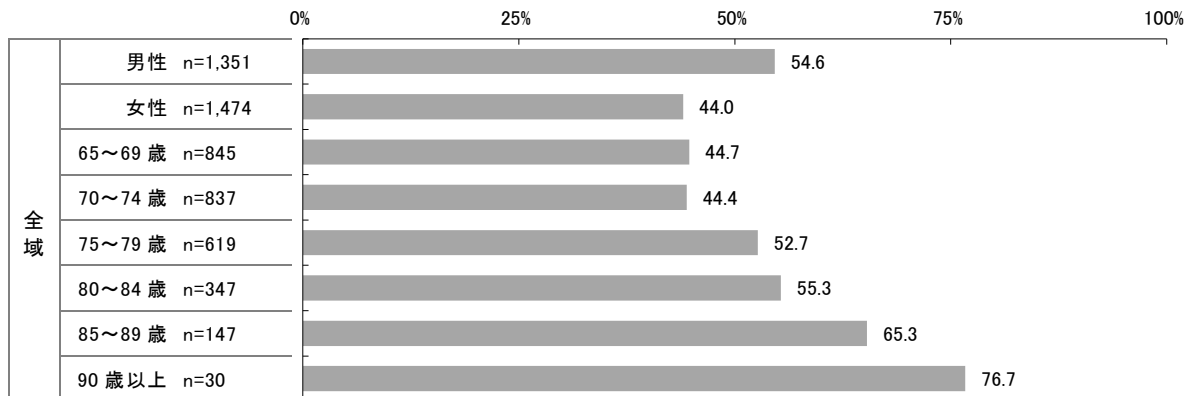
※「低い」「やや低い」に該当した方の割合になります。

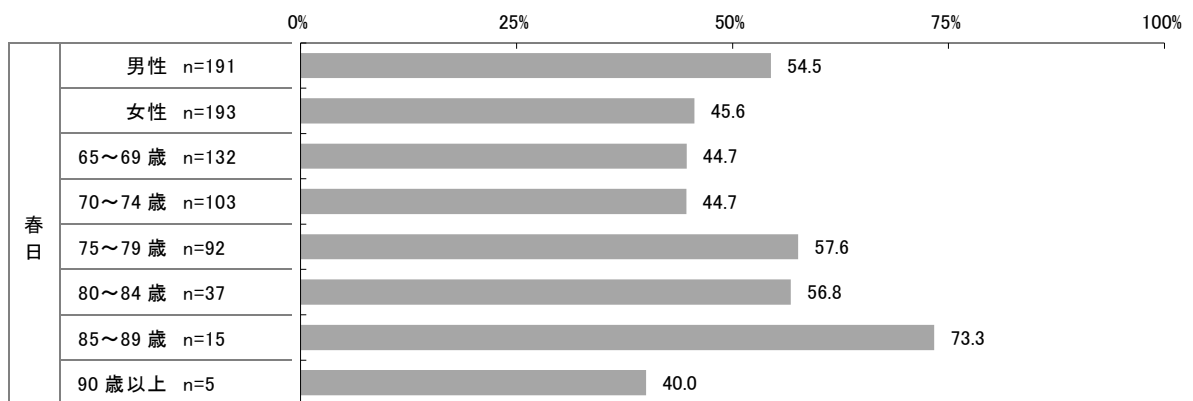
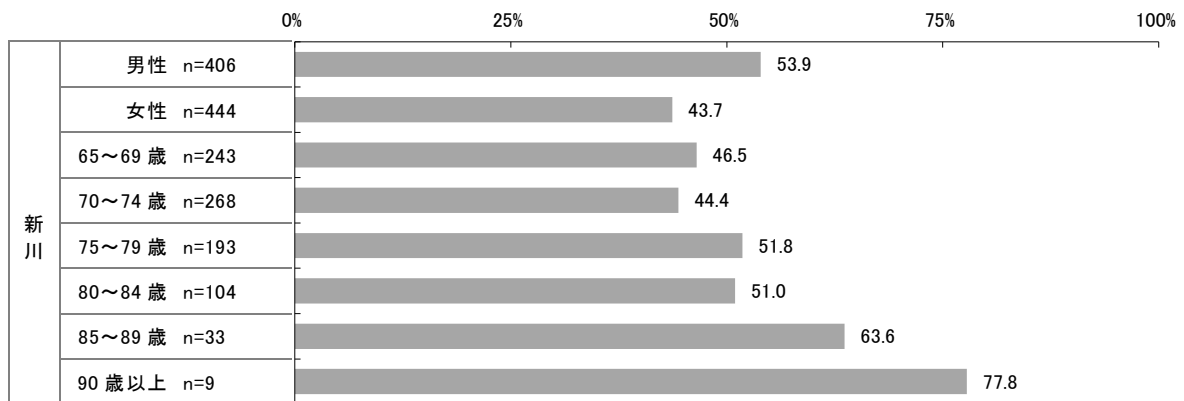
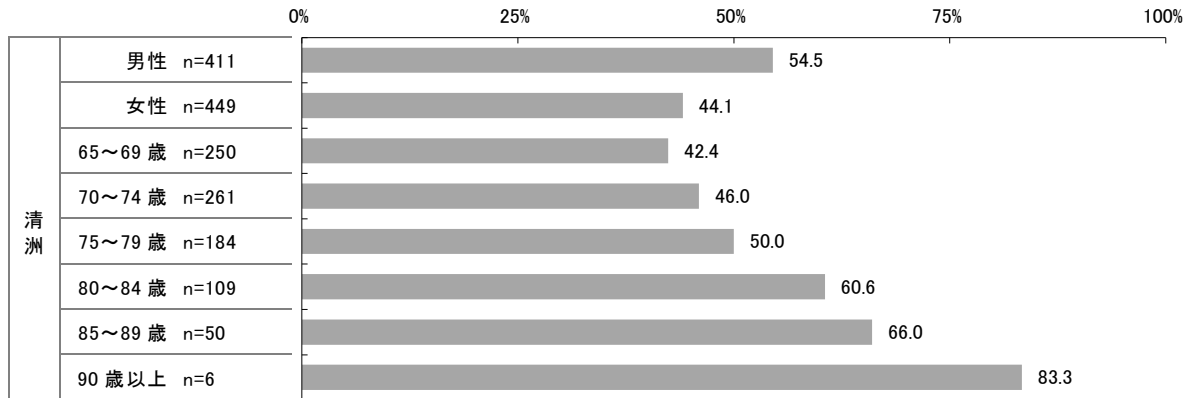
生活機能（社会的役割）低下者は49.1%となっています。地区別にみると、どの地区も約半数を占めています。性別にみると、女性より男性の方が高く、差がみられます。

○65歳以上高齢者の生活機能（社会的役割）低下者の割合（全域・地区別）

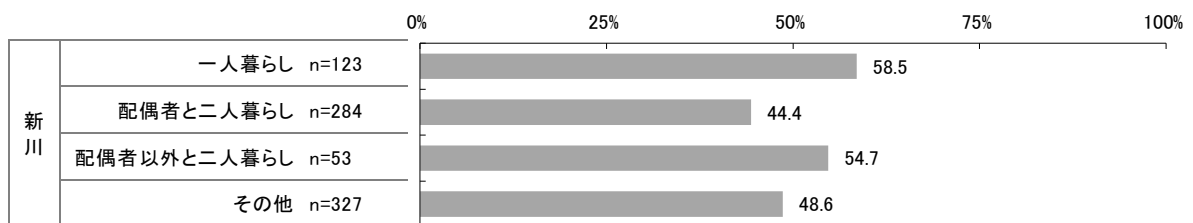
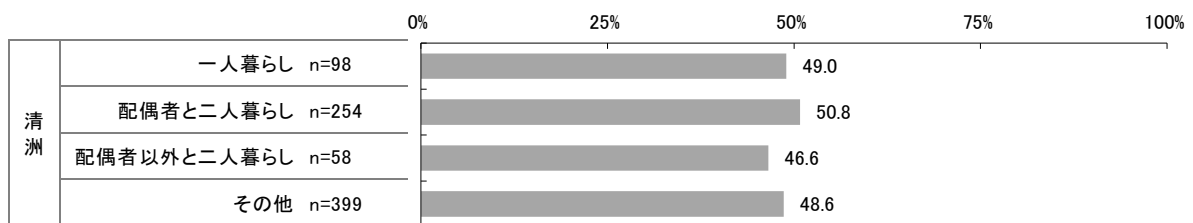
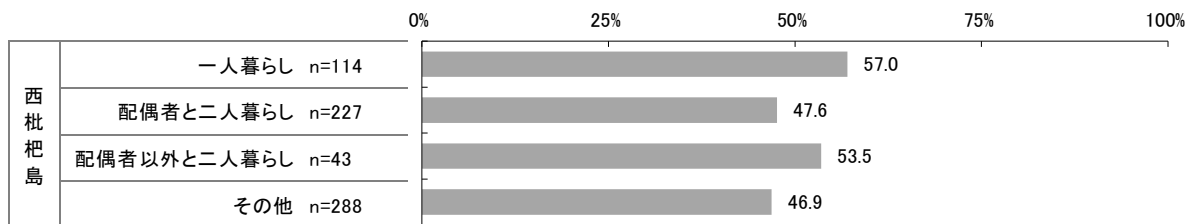
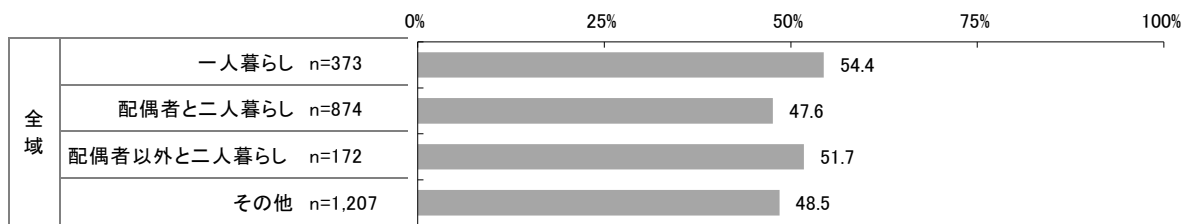


○生活機能（社会的役割）低下者の性別・年齢ごとの割合（全域・地区別）





○生活機能(社会的役割)低下者の世帯構成ごとの割合(全域・地区別)



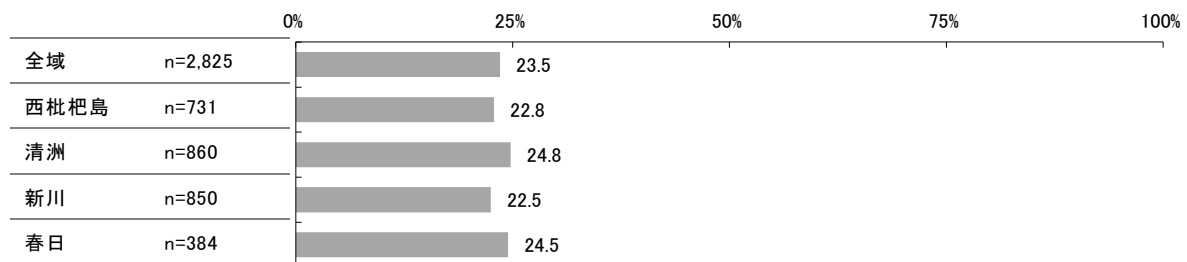
16 老研指標総合評価の割合

老研指標総合評価

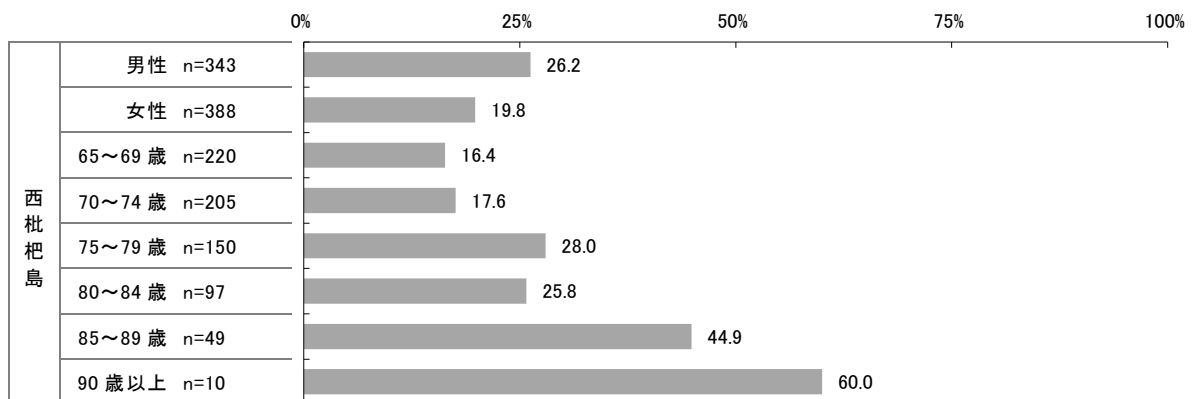
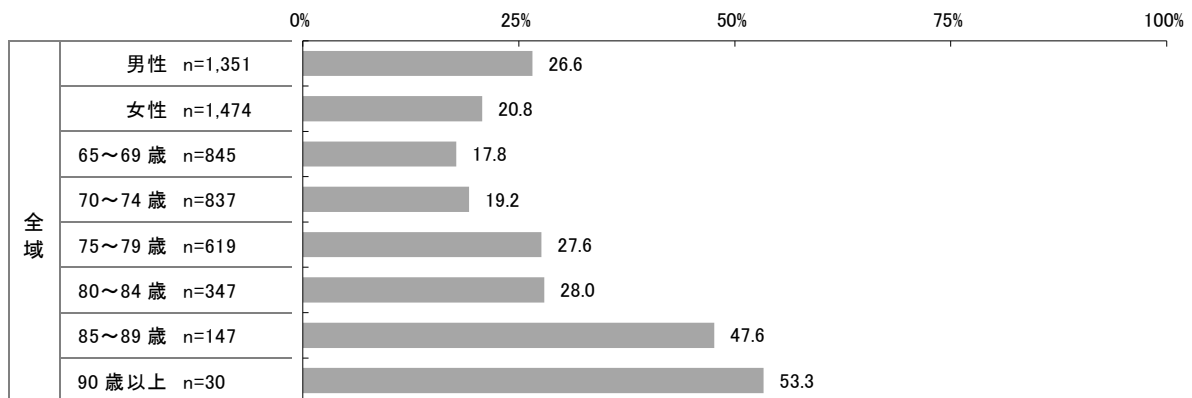
・手段的自立度(IADL)、生活機能(知的能動性)、生活機能(社会的役割)の合計点にて評価しています。
※「低い」「やや低い」に該当した方の割合になります。

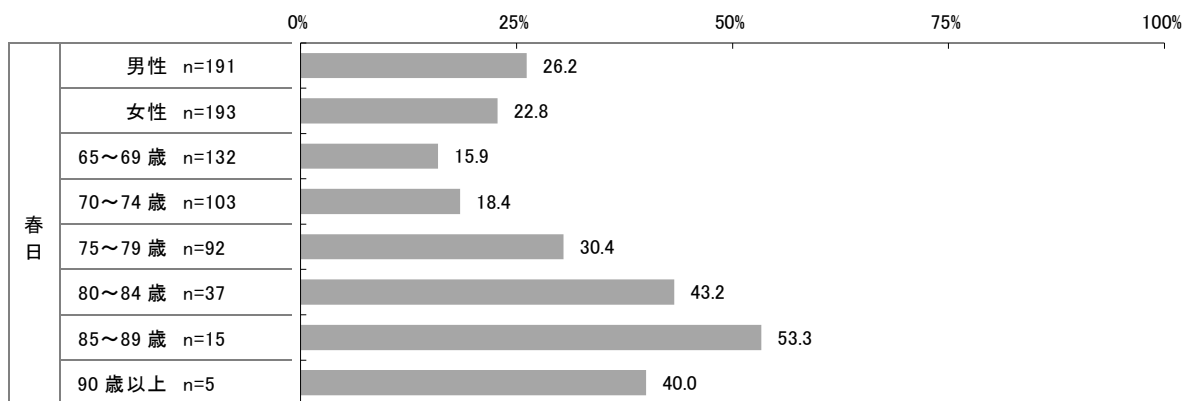
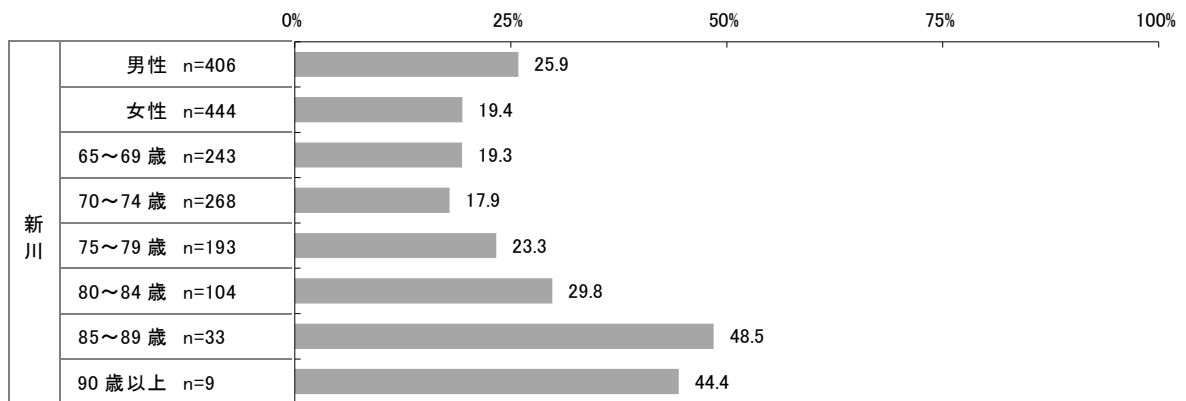
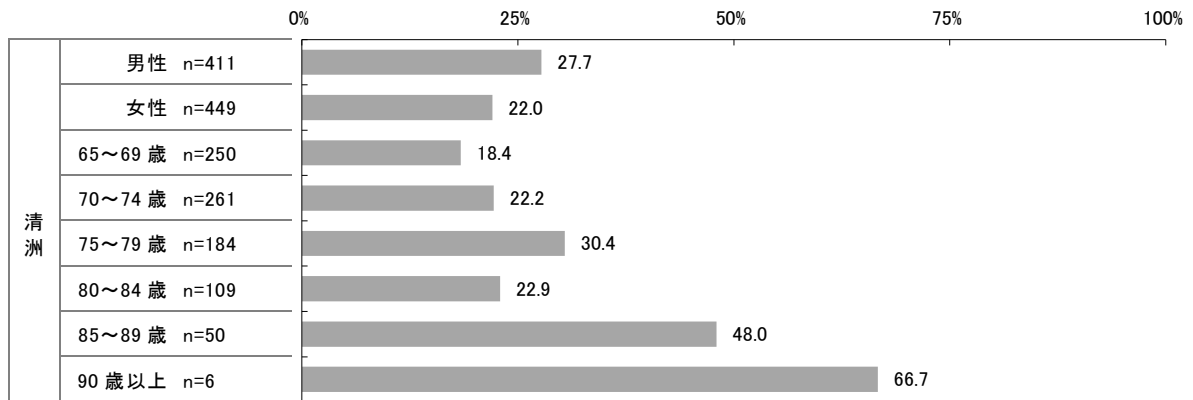
老研指標総合評価は 23.5%となっており、地区別でも大きな差はみられません。性別にみると、女性より男性の方が高くなっています。

○65 歳以上高齢者の老研指標総合評価の割合(全域・地区別)

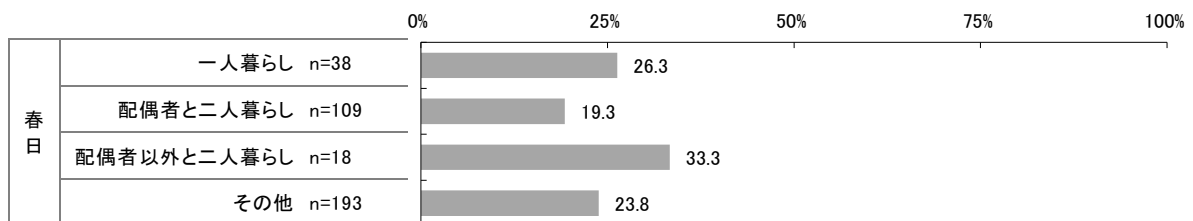
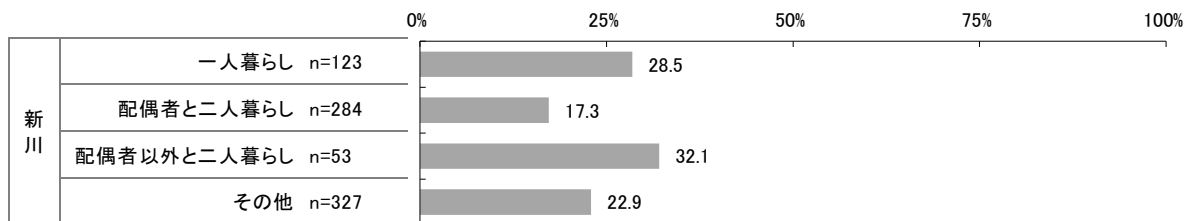
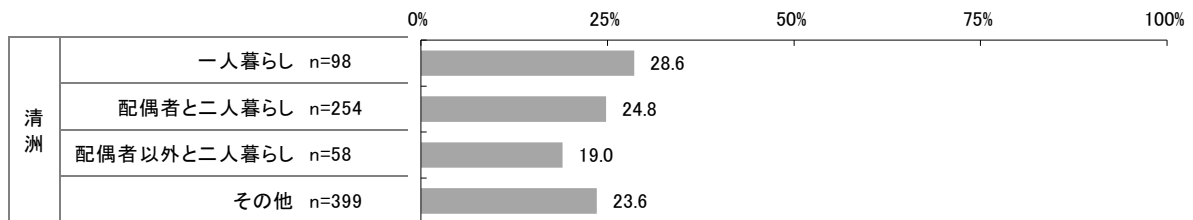
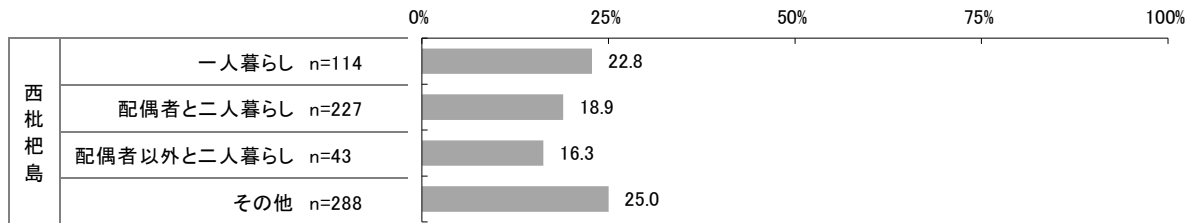
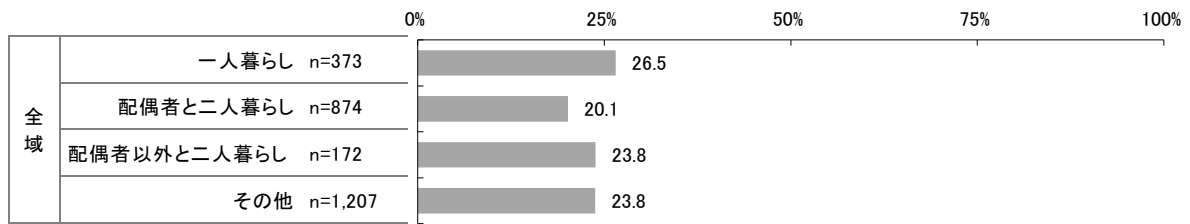


○老研指標総合評価の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○老研指標総合評価の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



17 認知機能障害保有者の割合

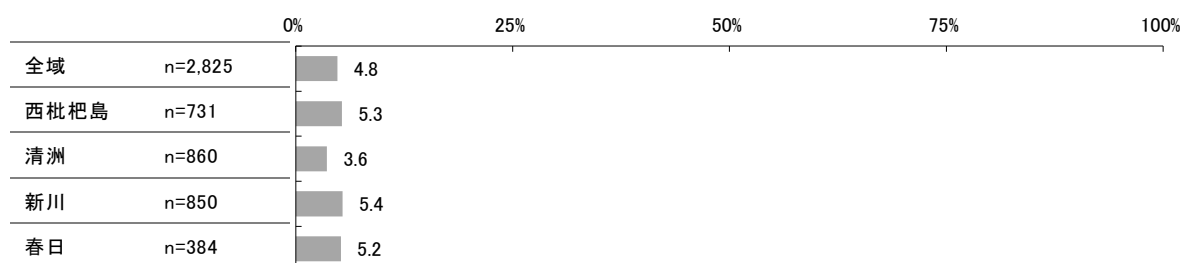
認知機能障害

・「見る、聴く、触る、嗅ぐ、味わう」を通じて得た情報から物事や自分の置かれている状況を認識したり、言葉を自由に操ったり、計算したり、何かを記憶したり学習したり、問題解決のために深く考えたりといった、認知機能がうまく処理できない状態を判定しています。

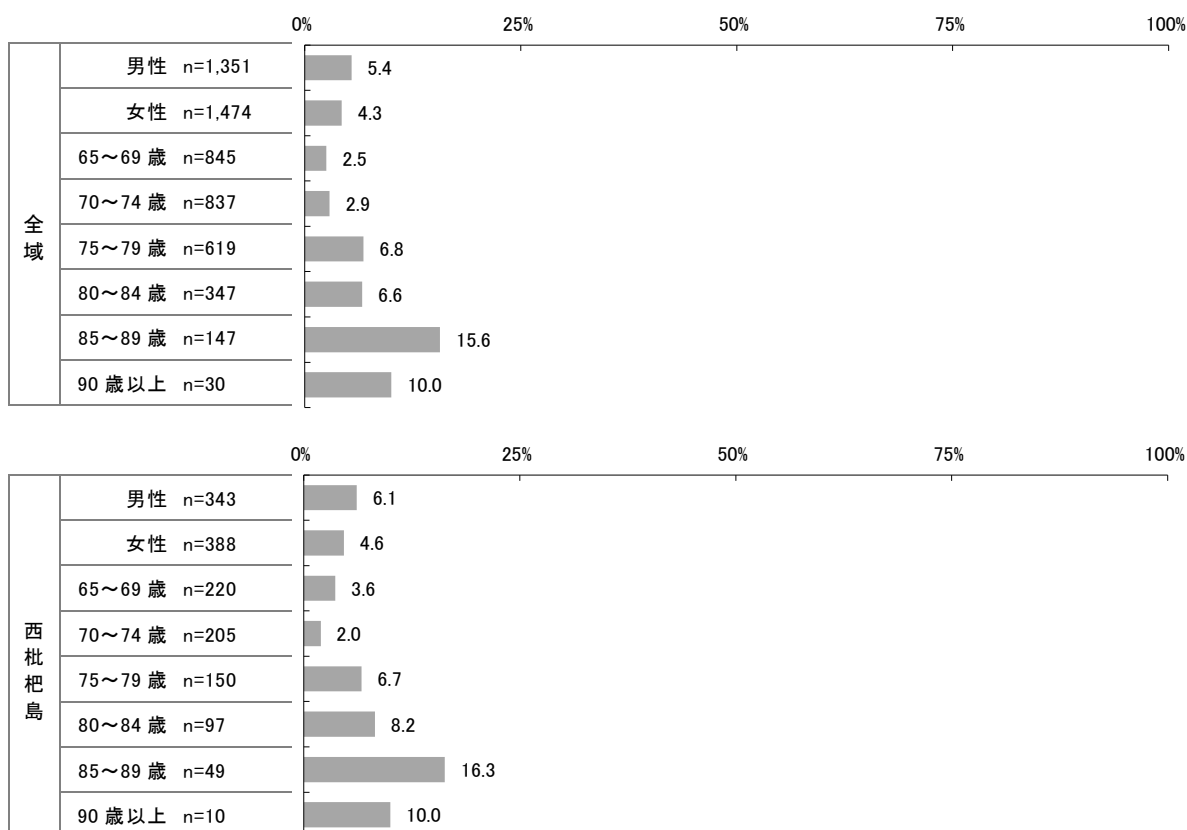
※「レベル2以上」に該当した方の割合になります。

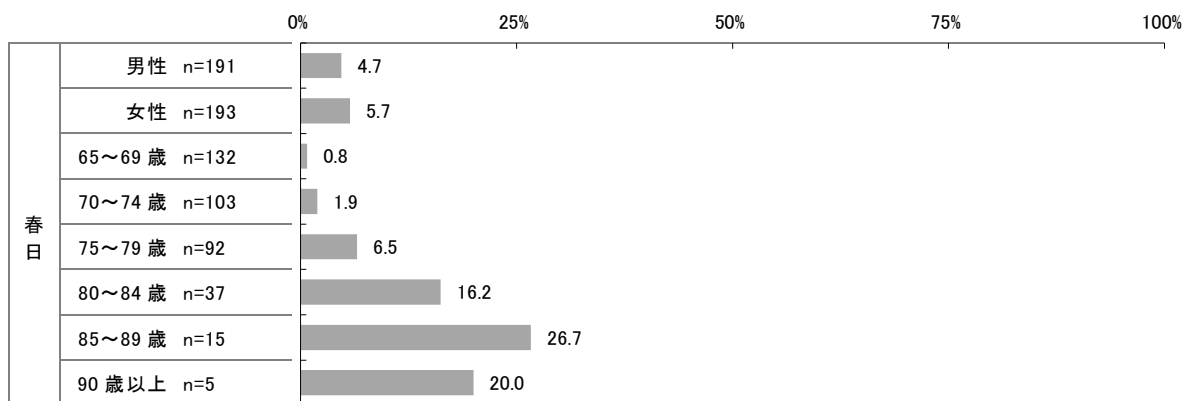
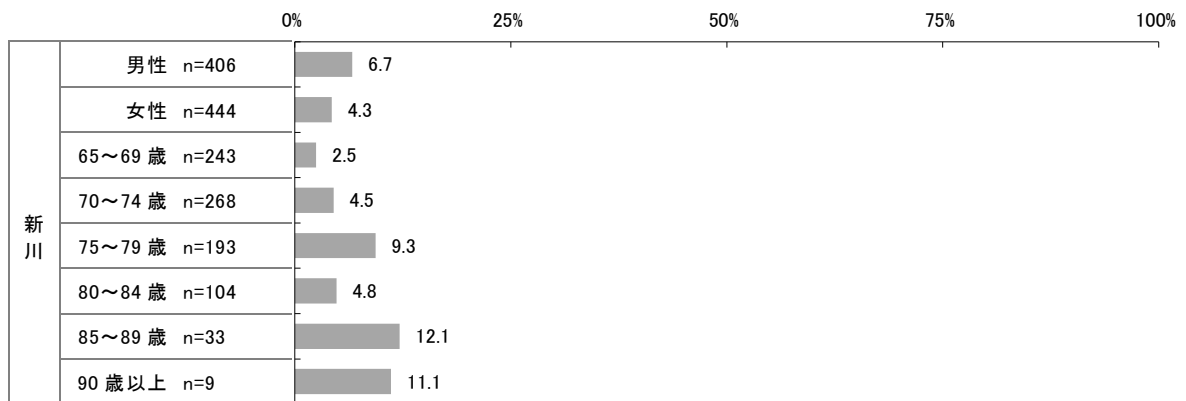
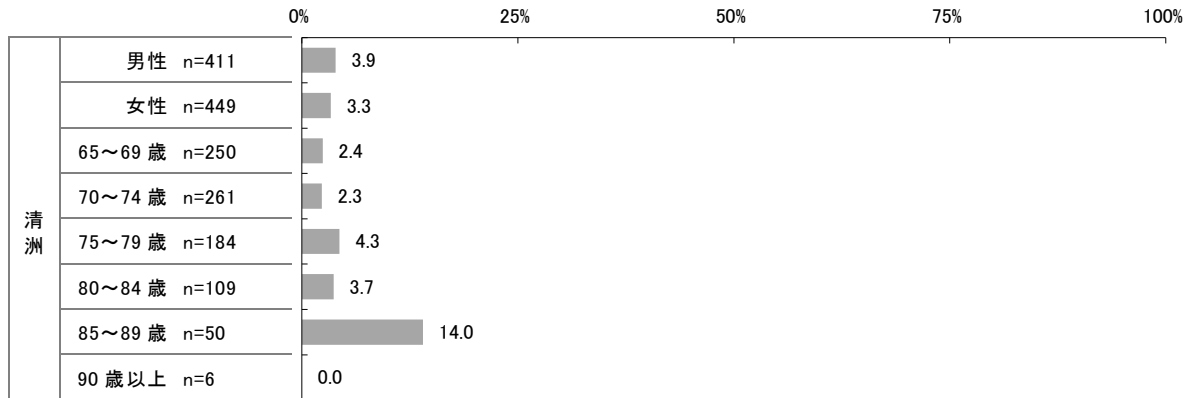
認知機能障害保有者は4.8%となっています。地区別にみると、清洲地区が3.6%で最も低く、新川地区が5.4%で最も高くなっています。性別にみると、女性より男性の方がやや高くなっています。年齢階級別にみると、どの地区も85～89歳が最も高くなっています。世帯構成別にみると、「配偶者以外と二人暮らし」が他の世帯よりも高く、清洲地区、新川地区、春日地区では大きな差がみられます。

○65歳以上高齢者の認知機能障害保有者の割合(全域・地区別)

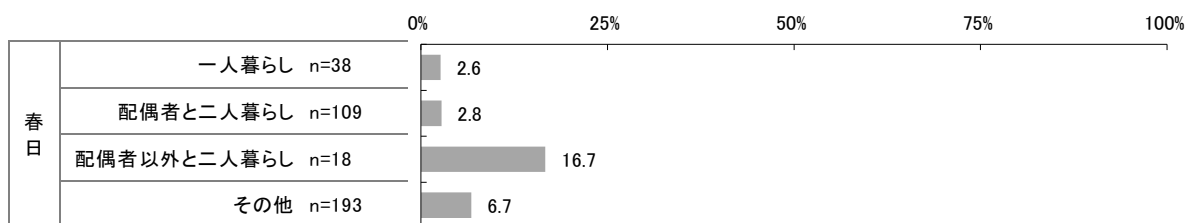
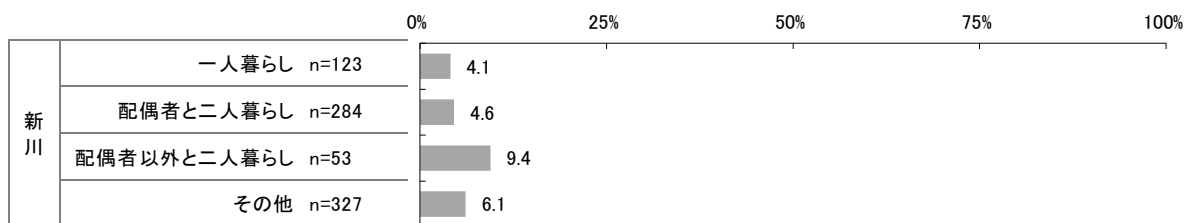
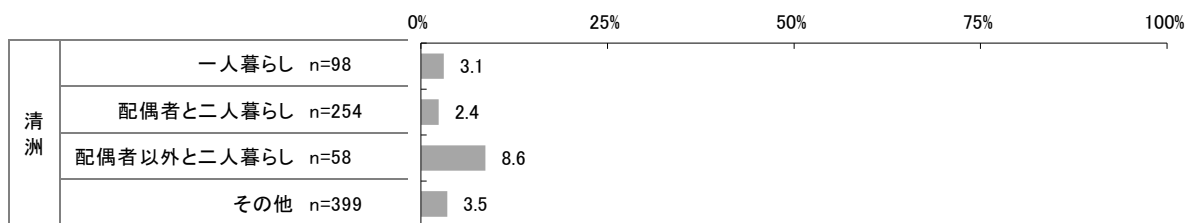
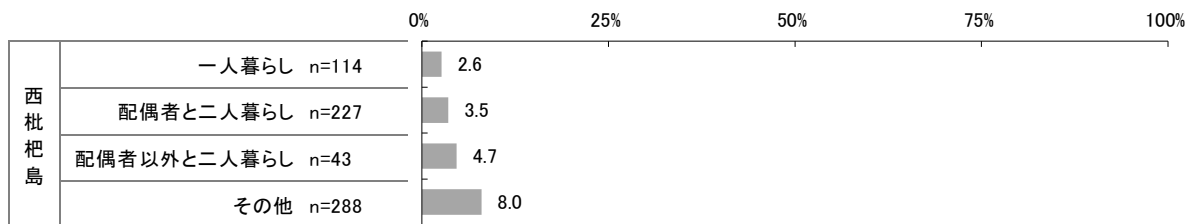
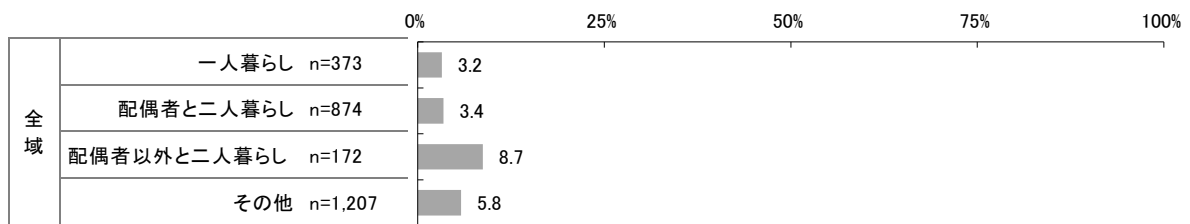


○認知機能障害保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





○認知機能障害保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



18 転倒リスク保有者の割合

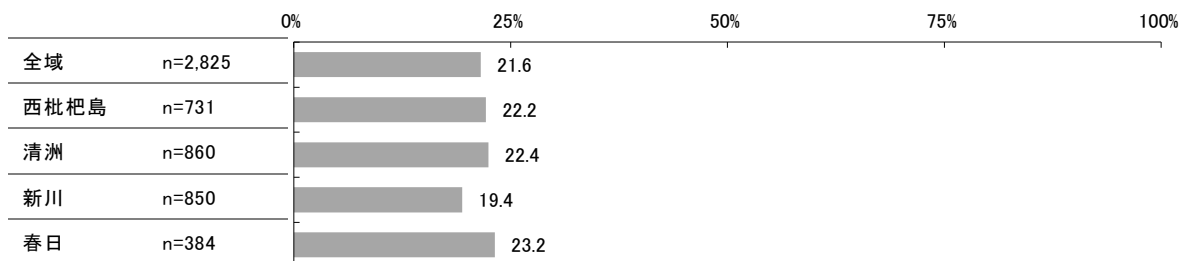
転倒リスク

・「転倒経験あり」「背中が丸くなってきた」「歩く速度が遅くなった」「杖を使っている」「5種類以上の服薬」から転倒のおそれがあることを判定しています。

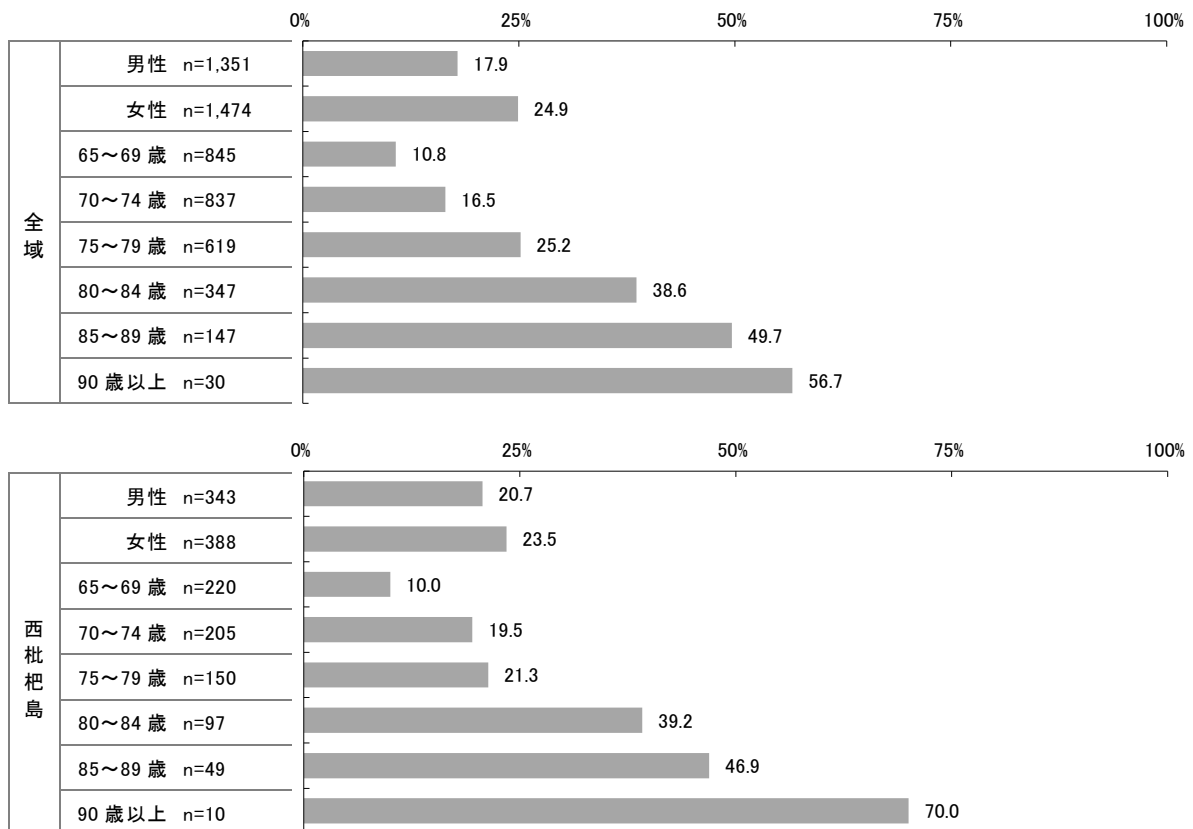
※「リスクあり」に該当した方の割合になります。

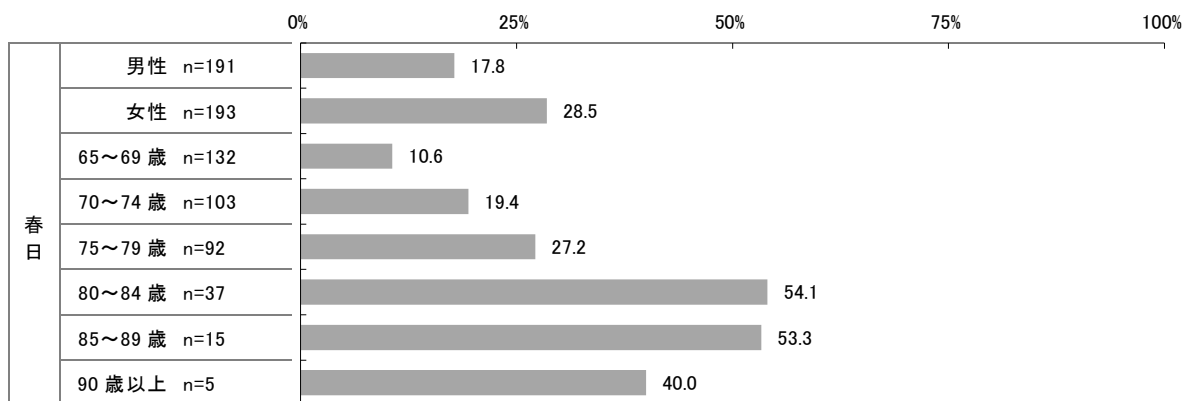
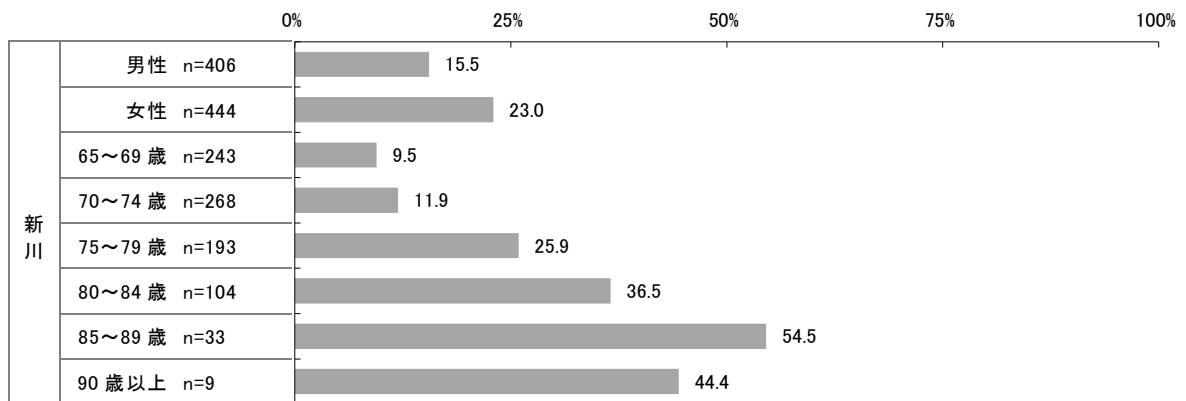
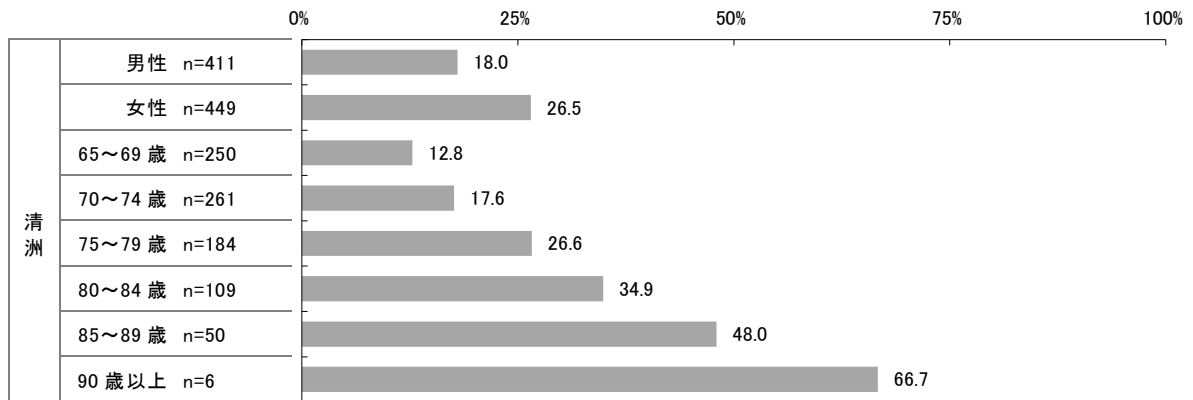
転倒リスク保有者は21.6%となっています。地区別にみると、新川地区が19.4%で最も低く、春日地区が23.2%で最も高くなっています。性別にみると、男性より女性の方がやや高くなっています。世帯構成別にみると、「配偶者以外と二人暮らし」が他の世帯よりも高く、西枇杷島地区、新川地区、春日地区では3割前後となっています。

○65歳以上高齢者の転倒リスク保有者の割合(全域・地区別)

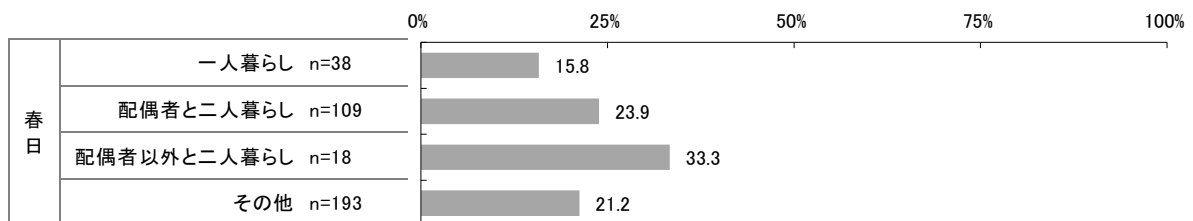
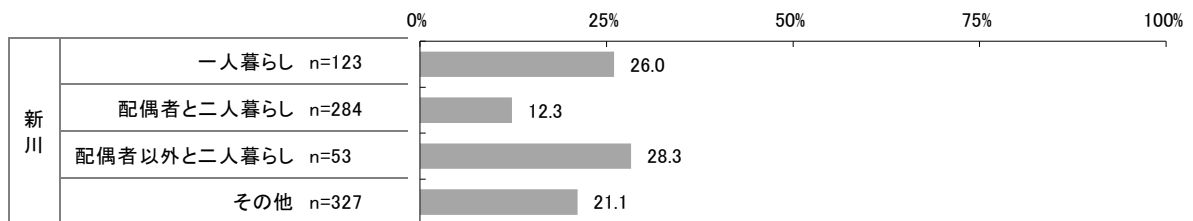
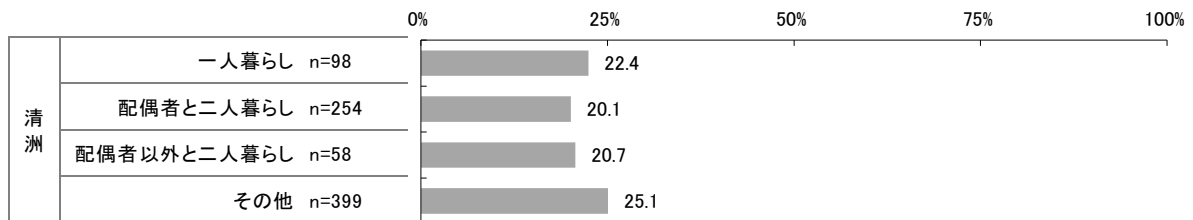
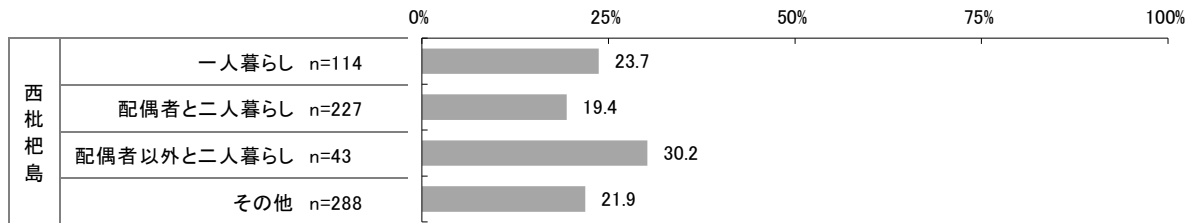
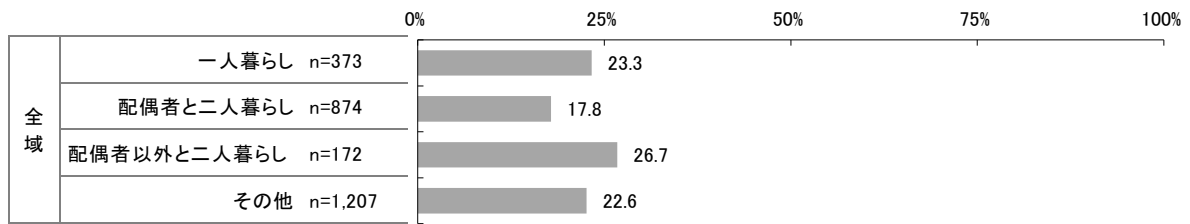


○転倒リスク保有者の性別・年齢ごとの割合(全域・地区別)





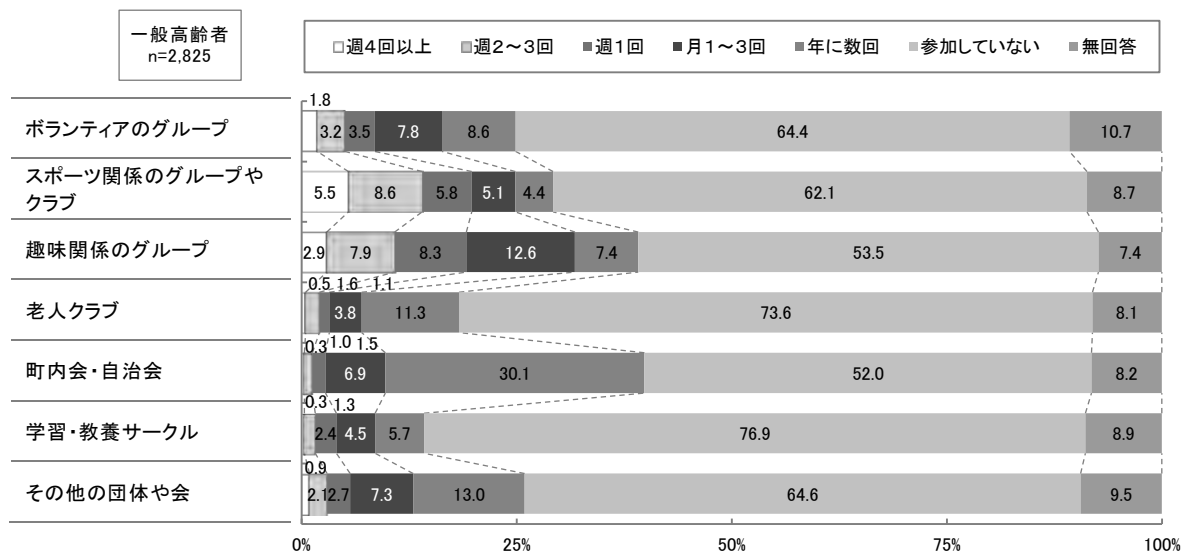
○転倒リスク保有者の世帯構成ごとの割合（全域・地区別）



19 地域活動への参加状況

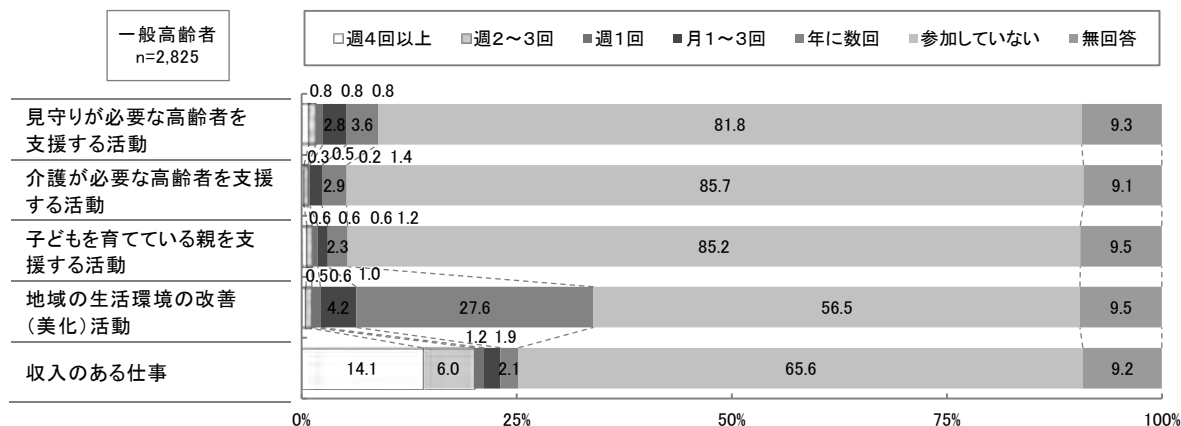
Q11. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか(それぞれ1つに○)

会・グループ等への参加状況は、それぞれ「参加していない」が最も高くなっています。特に、「老人クラブ」「学習・教養サークル」は7割を超えています。「趣味関係のグループ」「町内会・自治会」は比較的参加している方が多くみられます。



Q12. 以下のような活動(社会参加活動や仕事)をどのくらいの頻度でしていますか(それぞれ1つに○)

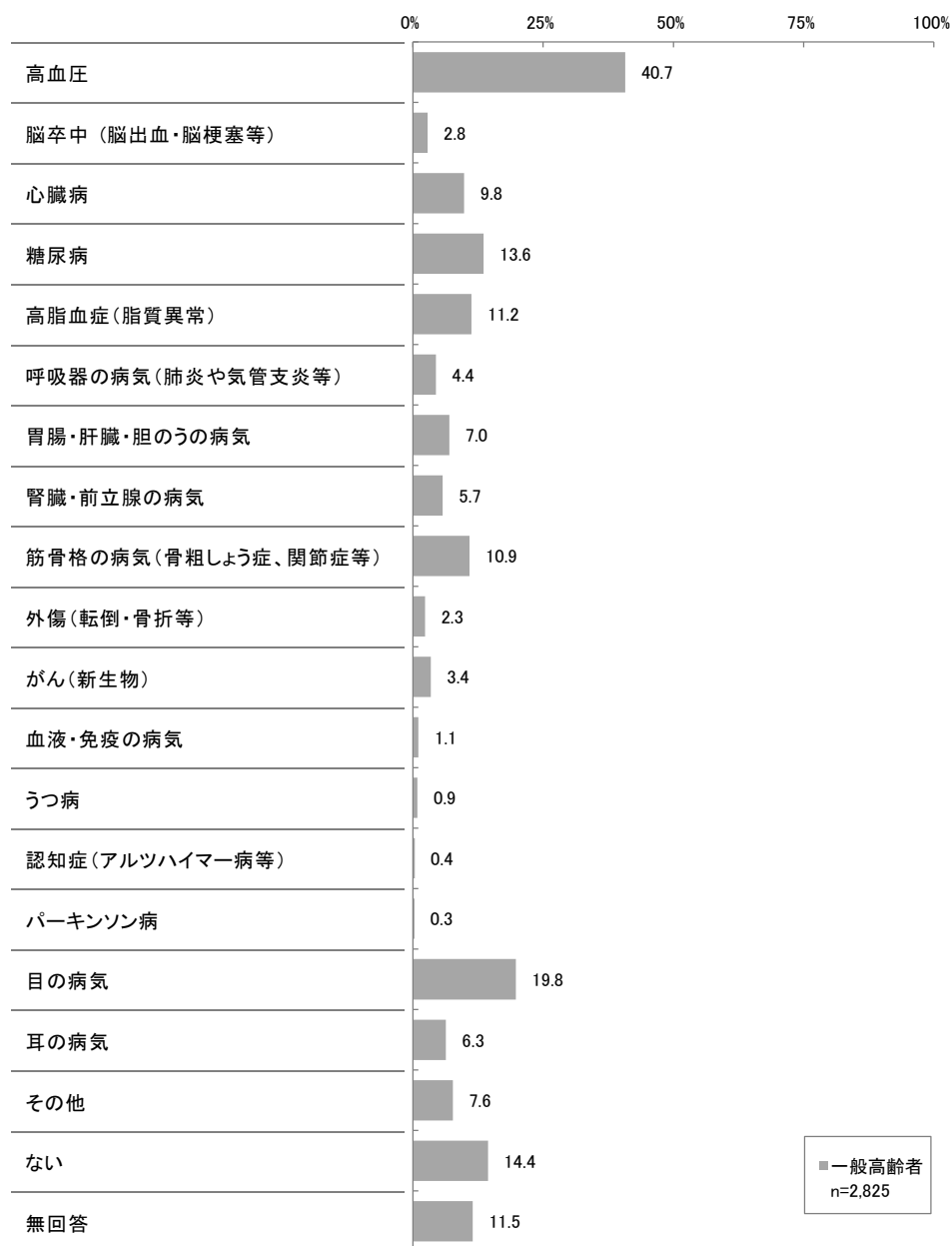
社会参加活動や仕事への参加状況は、それぞれ「参加していない」が最も高くなっていますが、「地域の生活環境の改善(美化)活動」「収入のある仕事」は比較的参加している方が多くみられます。



20 現病保有状況

Q2. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(あてはまるものすべてに○)

現病保有状況は、「高血圧」が40.7%で最も高く、次いで「目の病気」が19.8%となっています。性別・年齢階級別にみても、90歳以上の男性を除いて「高血圧」が最も高くなっています。



【現在治療中、または後遺症のある病気（性別・年齢階級別）】

単位：％

病名		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
	男性	n=417	n=411	n=299	n=148	n=64	n=12
	女性	n=428	n=426	n=320	n=199	n=83	n=18
高血圧	男性	38.1	38.9	40.8	48.0	34.4	16.7
	女性	32.9	39.7	49.4	47.7	53.0	44.4
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	男性	2.6	4.4	6.0	2.0	3.1	0.0
	女性	0.9	0.9	2.2	4.0	2.4	11.1
心臓病	男性	7.2	13.6	11.0	19.6	25.0	25.0
	女性	3.3	5.6	7.8	13.6	19.3	27.8
糖尿病	男性	16.1	19.0	14.4	16.9	9.4	0.0
	女性	9.1	14.3	10.3	9.5	12.0	11.1
高脂血症(脂質異常)	男性	9.8	8.5	7.0	8.8	4.7	0.0
	女性	15.4	16.4	12.2	10.6	9.6	0.0
呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	男性	3.6	4.1	5.4	8.1	10.9	0.0
	女性	2.6	3.1	5.3	5.5	3.6	11.1
胃腸・肝臓・胆のうの病気	男性	7.2	6.6	6.7	10.8	15.6	8.3
	女性	3.7	6.8	6.6	10.1	7.2	5.6
腎臓・前立腺の病気	男性	5.0	8.5	13.7	16.9	29.7	8.3
	女性	1.4	1.2	0.6	2.0	3.6	0.0
筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	男性	2.2	5.1	5.4	5.4	7.8	8.3
	女性	9.3	16.9	22.2	20.1	24.1	22.2
外傷(転倒・骨折等)	男性	1.0	1.2	2.0	2.0	4.7	8.3
	女性	0.9	3.1	4.4	5.0	3.6	0.0
がん(新生物)	男性	4.1	3.6	4.7	5.4	10.9	8.3
	女性	2.1	2.3	1.9	4.5	1.2	0.0
血液・免疫の病気	男性	0.7	1.0	1.7	1.4	0.0	0.0
	女性	1.2	0.7	1.3	2.0	0.0	0.0
うつ病	男性	1.0	0.2	0.3	0.0	1.6	0.0
	女性	1.2	1.2	2.2	0.0	1.2	0.0
認知症 (アルツハイマー病等)	男性	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
	女性	0.5	0.0	0.6	1.0	2.4	0.0
パーキンソン病	男性	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性	0.2	0.2	0.6	1.0	0.0	0.0
目の病気	男性	12.5	15.8	19.7	19.6	32.8	16.7
	女性	13.8	23.7	25.6	26.1	34.9	38.9
耳の病気	男性	3.8	6.1	8.7	10.1	10.9	0.0
	女性	2.8	6.6	6.9	9.0	7.2	22.2
その他	男性	7.7	9.2	5.7	4.7	9.4	0.0
	女性	9.1	6.1	8.1	8.5	8.4	5.6